

# 令和元年第8回教育委員会定例会議事録

令和元年8月2日

東久留米市教育委員会

令和元年第8回教育委員会定例会

令和元年8月2日(金)午前9時30分開会

市役所7階 704会議室

- 議題 (1) 議案第33号 「令和元年度(平成30年度分)東久留米市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書」の策定について
- (2) 議案第34号 令和2年度使用東久留米市立小中学校特別支援学級用教科用図書の採択について
- (3) 議案第35号 令和2年度使用東久留米市立中学校用教科用図書の採択について
- (4) 議案第36号 令和2年度～令和5年度使用東久留米市立小学校用教科用図書の採択について
- (5) 諸報告
- 

出席者(5人)

教 育 長	園 田 喜 雄
委 員 (教育長職務代理者)	尾 関 謙一郎
委 員	細 田 初 雄
委 員	宮 下 英 雄
委 員	馬 場 そわか

---

東久留米市教育委員会会議規則第13条の規定に基づき出席を要求した者の職氏名

教 育 部 長	森 山 義 雄
指 導 室 長	椿 田 克 之
学 務 課 長	白 土 和 巳
生涯学習課長	板 倉 正 弥
図 書 館 長	佐 藤 貴 泰
主幹・統括指導主事	荒 井 友 香
調査委員会委員長	出 張 吉 訓
調査委員会委員長	澤 井 康 郎
市立久留米中学校	齋 藤 実

---

事務局職員出席者

教育総務課庶務係長	鳥 越 富 貴
-----------	---------

---

傍聴者49人

### ◎開会及び開議の宣告

(開会 午前9時30分)

○園田教育長 これより令和元年8回教育委員会定例会を開会します。委員は全員出席です。

---

### ◎議事録署名委員の指名

○園田教育長 本日の議事録の署名は尾関委員にお願いします。

○細田教育委員 はい。

---

### ◎傍聴の許可

○園田教育長 傍聴の許可に入ります。傍聴の方はいらっしゃいますか。

○鳥越庶務係長 いらっしゃいます

○園田教育長 お入りいただきます。暫時休憩します。

(休憩 午前9時31分)

(傍聴者 入室)

お配りしている「教育委員会傍聴人規則」により傍聴していただきます。本日は大勢の方が傍聴にお見えになっていますので、私語はお控えいただきますようお願いいたします。また、お配りしている資料ですが、お入り用の場合はお持ち帰りいただけます。

---

### ◎議事録の承認

○園田教育長 議事録の承認に入ります。7月19日に開催した第7回臨時会の議事録について、ご確認をいただきました。馬場委員から修正のご連絡をいただきましたが、ほかはよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

異議なしと認め、議事録は承認されました。

---

### ◎議案第33号の上程、説明、質疑、討論、採決

○園田教育長 日程第1「議案第33号『令和元年度（平成30年度分）東久留米市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書』の策定について」を議題とします。教育部長から説明をお願いします。

○森山教育部長 「議案第33号『令和元年度（平成30年度分）東久留米市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書』の策定について」、上記の議案を提出する。令和元年8月2日提出。東久留米市教育委員会教育長、園田喜雄。提案理由ですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられているためです。詳しくは教育総務課長から説明します。

○佐川教育総務課長 議案第33号について補足説明します。「令和元年度（平成30年度分）東久留米市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告」は、平成31年度から平成35年度までの5年間、これは令和元年度から令和5年度までの5年間と読み替えますが、計画期間とするものです。内容は「第2次東久留米市教育振興基本計画」を達成するために策定した、平成30年度事業計画に掲げた96事業を対象に、教育委員会及び有識者により点検及び評価を行ったものです。有識者には教育委員会の各所管

が作成した取組状況の実績及び評価の（案）を評価していただき、その有識者による評価も含め、最終的に本日、教育委員会でご審議いただくものです。

報告書の構成についてご説明します。96の対象事業の一覧は4ページから12ページまでに掲載しており、13ページから117ページまでが事業の個別シートという構成になっています。2ページの「(3)点検及び評価の記述」をご覧ください。「取組状況の評価」には「前進、進行中、停滞」の3段階となっており、「今後の方向」は「拡充、継続、改善、縮小」の4段階の評価方式を用いています。《取組状況》の下段には「前進」及び「停滞」事業の概要を、3ページの《今後の方向》の下段には「拡充」及び「改善」事業の概要を、今回から新たに加えています。続いて、118ページをご覧ください。報告書の策定に当たり、評価をお願いしている有識者には報告書の説明会を開催するとともに、本市の学校教育の現場を視察していただきました。有識者の評価は119ページから掲載しています。日本体育大学の角屋重樹先生からは「各課の事業は互いに関係深い。例えば、知、徳、体という視点及び学校とそれらを取り巻く環境などの見地から整理し、一層の効率化を目指すことも一つの方法と考えられる。」などの意見。東京理科大学特任教授の並木正先生からは「学校管理職には東久留米で育つ児童・生徒像を明確にして職員に周知し、地域に根ざした教育に邁進してもらいたい。」などの意見。東久留米市市民大学運営委員会名誉会長の佐藤柳次郎先生からは、「生涯学習の施策は大変重要である。教育委員会だけでなく、市全体の、タテ・ヨコに及ぶ、壮大で複雑な取り組みになる。市の職員には施策を立案する力、他部署と調整し交渉する力、さらに地域の方々の思いをくみ取れる力を期待したい。」などの意見をいただきました。そのほか、具体的にいただいたご意見等についても令和2年度の事業計画を策定していくに当たり、参考にしたいと考えています。今後の予定ですが、本日ご承認いただけましたら9月の市議会定例会前に議会へ報告し、ホームページ等でも公表していきたいと考えています。

○園田教育長 119ページ以降に3人の有識者のコメントを載せていますが、例えば6ページをご覧くださいますと、今年度から有識者に選んでいただいた事業ごとの個別評価という新たな取り組みを行っています。ほかには、21番や25番の事業になります。

報告書についてはこれまでも教育委員会の中で何度か議題にしていますので、委員の皆様には十分ご覧いただいています。加えてご質問、ご意見はありますか。

○宮下教育委員 有識者が今年から1人増えています。大きな改善だろうと思います。私も、この点検評価の有識者を約9年間やってきましたが、ずっと一人または二人体制でした。生涯学習の視点から見た学校教育、また、学校教育の視点から見た生涯学習という新たな視点が加えられたのですから、これは素晴らしいことだと思っています。とても前向きに取り組まれていることを強く感じました。

○園田教育長 ありがとうございます。よろしければ採決に入ります。「議案第33号『令和元年度（平成30年度分）東久留米市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書』の策定について」を採択します。本案を可決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

全員挙手であります。よって、議案第33号は承認することに決しました。

---

◎議案第34号の上程、説明、質疑、討論、採決

○園田教育長 日程第2「議案第34号 令和2年度使用東久留米市立小中学校特別支援学級

用教科用図書の採択について」を議題とします。教育部長から説明をお願いします。

- 森山教育部長 「議案第34号 令和2年度使用東久留米市立小中学校特別支援学級用教科用図書の採択について」、上記の議案を提出する。令和元年8月2日提出。東久留米市教育委員会教育長、園田喜雄。提案理由ですが、令和2年度に東久留米市立小中学校特別支援学級が使用する一般図書の採択を行う必要があるためです。詳しくは指導室長から説明します。
- 椿田指導室長 東久留米市教科用図書採択要綱第15条の2に特別支援学級で使用する教科用図書の採択についての記載があります。この規定に基づき「令和2年度使用東久留米市立小中学校特別支援学級用教科用図書の採択」に係る事務手続を進めてきました。委員の皆様には各校から申請のありました調査資料と見本本を用意しています。ご審議のほどよろしくをお願いします。

それでは、特別支援学級使用教科用図書選定調査委員会の委員長から説明をしてもらいますがよろしいでしょうか。

- 園田教育長 お願いします。

(澤井選定調査委員長 入室)

澤井校長におかれましては、調査報告を取りまとめていただきましてありがとうございます。調査の経緯等の報告をお願いします。

- 澤井委員長 特別支援学級教科用図書選定調査委員会委員長の市立第七小学校校長の澤井です。初めに委員会の開催経過と協議内容についてご説明します。去る5月15日(水曜日)午前11時から、第1回特別支援学級教科用図書選定調査委員会を開催しました。その際、特別支援学級設置小学校4人と中学校3人の計7人の校長が出席し、会は成立し、委員長を選出しました。その結果、私とその任を受けました。続いて、教育委員会事務局から趣旨説明があり、特別支援学級設置校別資料作成委員会に資料作成を依頼することとしました。7月10日(水曜日)午後3時から第2回委員会を開催し、各校の資料作成委員長から説明を受け、各校使用希望の一般図書の調査資料について検討しました。その際、東久留米市教科用図書採択要綱実施細目に則り、「①内容」「②構成・分量」「③表記・表現」「④その他」という4観点に加え、次の視点を念頭に資料が適切かどうか調査しました。まずは、児童・生徒一人ひとりの障害の程度が違うので、その実態に応じて最もふさわしい内容のものを選定すること。次に、可能な限り系統的に編集されており、教科の目標に沿う内容を持つ図書であること。そして、上学年で使用することとなる教科用図書との関連性を考慮すること。さらには、教科用図書として使用する上で、適切な体裁の図書であること。例えば、音声のみによる教材、ジグソーパズル型、切り絵工作型などの、図書として体裁をなしていないものは除いています。その結果、各校から提出された資料は適切であると判断しました。本日は各校申請の使用教科用図書一覧と資料を配付しています。また、若干の見本本も用意していますのでご参考にしてください。

- 園田教育長 ありがとうございます。ご質問はいかがですか。

- 馬場教育委員 一人ひとりの障害の程度が違うので、その実態に合わせてふさわしい内容のものを選定していただいていることは、とてもありがたいと思いました。表を見ると星印の付いている本があります。昨年度の採択の時には、これらの本は文部科学省著作の教科書であるとの説明がありました。これらは特別支援学校卒のために作成されていると聞いていますが、特別支援学級でも積極的に活用しようとしている動きはありますか。

- 澤井委員長 文部科学省著作教科書のいわゆる星本については、昨年度も本市では数校が活用しました。今回も小学校3校と中学校2校が選定していますが、私の学校では選定してい

ません。例えば国語の場合は低学年用の一つ星の本は文字が少なく、イラストが多くなっています。本校では1年生の交流授業も見据えて低学年の検定本を選定していますので、必ずしもそれを使っているのではなく、児童の発達段階と学習状況を踏まえ、使用が効果的な場合には特別支援学級でも採用しているということです。

○園田教育長 よろしいですか。そのほかいかがですか。

○細田教育委員 学年ごとに使用する教科書が決まっている検定本については心配はありませんが、いわゆる一般図書については各学校で選んでいるので、小・中学校で使用する本が重なることがあるのではないかと思います。昨年度は中学校において、小学校が使用している教科書を確認しているとのことでした。今回は過去に使用した一般図書についての確認漏れなどはありませんか。

○澤井委員長 本市では、授業改善研究会や小中連携の日において年間数回ですが、特別支援教育部会が小中互いの授業を見て協議する場があります。そういう機会を利用したり、卒業時の情報交換を密にして、児童の実態に応じた指導が継続されるようにしています。また、選定調査委員会においても小中連携の視点が話題になりまして、全ての学校に対し確認を行いました。各校同じことの繰り返しを避けて基礎・基本の学習を大切にしながら、さらに積み上げることをねらいとして選定しています。なお、一部の中学校では、小学校で培った基礎的な学力を発展させると同時に、実生活に必要な生活力を養っていくために、小学校の内容が定着していない生徒に配慮して小学校の内容が含まれていること、あるいは、仮名が振ってあったり、図や絵が用いられる視覚的に分かりやすい教科書であることなどにも留意して、同じシリーズ本を選択している例もあります。

○園田教育長 そのほかいかがですか。よろしければ、澤井委員長への質問は以上とさせていただきます。澤井委員長、ありがとうございました。

(澤井選定調査委員長 退席)

ここで採決の仕方について確認します。先ほど澤井委員長から調査の経緯、一般図書選定の必要性などについてご報告いただきました。資料は学校ごとに整理されていますので、採択については1校ずつ行いたいと考えていますがよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認め、そのようにさせていただきます。「議案第34号 令和2年度使用東久留米市立小中学校特別支援学級用教科用図書の採択について」の採決に入ります。

第三小学校の教科用図書は一覧にあるものでよろしいでしょうか、挙手をお願いします。

(全員挙手)

全員挙手です。

続いて、第七小学校の教科用図書は一覧にあるものでよろしいでしょうか。挙手をお願いします。

(全員挙手)

全員挙手です。

神宝小学校の教科用図書は一覧にあるものでよろしいでしょうか。挙手をお願いします。

(全員挙手)

全員挙手です。

続いて、南町小学校の教科用図書は一覧にあるものでよろしいでしょうか。

(全員挙手)

全員挙手です。

東中学校の教科用図書は一覧にあるものでよろしいでしょうか。

(全員挙手)

全員挙手です。

西中学校の教科用図書は一覧にあるものでよろしいでしょうか。

(全員挙手)

全員挙手です。

中央中学校の教科用図書は一覧にあるものでよろしいでしょうか。

(全員挙手)

全員挙手です。

以上、各校にわたって各委員のご賛同を得ましたので、議案第34号は可決することに決しました。

---

#### ◎議案第35号の上程、説明、質疑、討論、採決

○園田教育長 日程第3「議案第35号 令和2年度使用東久留米市立中学校用教科用図書の採択について」を議題とします。教育部長から説明をお願いします。

○森山教育部長 「議案第35号 令和2年度使用東久留米市立中学校用教科用図書の採択について」、上記の議案を提出する。令和元年8月2日提出。東久留米市教育委員会教育長、園田喜雄。提案理由ですが、令和2年度に東久留米市立中学校が使用する教科用図書について、令和3年度新学習指導要領全面実施までの期間、現在使用している教科用図書の使用をさらに1年間継続する必要があるためです。詳しくは指導室長から説明します。

○樫田指導室長 委員の皆様には選定調査報告書を用意しています。令和元年度においては、令和2年度に使用する「特別の教科 道徳」以外の教科用図書について新たに採択を行うこととなりました。それでは、選定調査報告書について説明します。平成27年度に、東久留米市立中学校で平成28年度から平成31年度までの4年間使用する教科用図書の採択が行われています。今回の採択は令和3年度から新学習指導要領が中学校で全面実施されることに伴い、現行指導要領に基づく教科用図書を令和2年度の1年間使用することに当たり、4年間の使用実績を踏まえ、継続使用を提案させていただくものです。そのため、平成27年度に選定調査を行った教科用図書と資料の変更はありません。現在、使用している各教科の教科用図書についての学校での使用状況について、中学校校長会を代表して、市立久留米中学校の齋藤校長から説明していただきますが、よろしいでしょうか。

○園田教育長 お願いします。

(齋藤久留米中学校校長 入室)

齋藤校長よろしく申し上げます。

○齋藤校長 市立久留米中学校校長の齋藤です。現在、市立各中学校での生徒の学習活動は問題なく進んでいます。現在の教科用図書を活用しながら、令和3年度以降の新学習指導要領の全面実施に向けた研究を各学校で着実に実施しています。そのため、令和2年度も引き続き、現在使用している教科用図書を使用することが適切であると考えています。

○園田教育長 ありがとうございます。委員からご質問いかがですか。よろしければ採決に入ります。「議案第35号 令和2年度使用東久留米市立中学校用教科用図書の採択について」、継続使用にご異議がなければ、挙手をお願いします。

(全員挙手)

全員挙手です。異議なしと認めます。「議案第35号 令和2年度使用東久留米市立中学校用教科用図書の採択について」は提案のとおり決めます。

齋藤校長、ありがとうございました。

(齋藤久留米中学校校長 退席)

それでは、次の準備のために暫時休憩します。

(休憩 午前 9時58分)

(再開 午前10時01分)

---

### ◎議案第36号の上程、説明、質疑、討論、採決

○園田教育長 休憩を閉じて再開します。日程第4「議案第36号 令和2年度～令和5年度使用東久留米市立小学校用教科用図書の採択について」を議題とします。教育部長から説明をお願いします。

○森山教育部長 「議案第36号 令和2年度～令和5年度使用東久留米市立小学校用教科用図書の採択について」、上記の議案を提出する。令和元年8月2日提出。東久留米市教育委員会教育長、園田喜雄。提案理由ですが、令和2年度から令和5年度までに東久留米市立小学校が使用する教科用図書の採択を行う必要があるためです。詳しくは指導室長から説明します。

○椿田指導室長 東久留米市教科用図書採択要綱の規定に基づき、東久留米市立小学校で使用する教科用図書に係る事務手続を進めてきました。委員の皆様には教科用図書採択に関連した各種通知・要綱のほか、選定調査報告書、市民の意見の写し、教科用図書の見本を用意しています。

初めに、選定調査報告書について説明します。令和2年度から令和5年度まで使用する東久留米市立小学校教科用図書が文部科学大臣の検定を経たことから、採択手続に係る「教科書選定調査委員会」並びに「教科別資料作成委員会」の設置が必要となりました。お手元の選定調査報告書は、学校の意見を参考にして「教科書選定調査委員会」が作成した資料です。選定調査委員会による報告書に内容については、後ほど、選定調査委員長から説明していただく予定です。

次に、市民の意見を取りまとめた資料です。「市民の意見」については、意見を集めるに当たり非開示としています。市民の皆様には、本庁舎では6月17日（月曜日）から7月4日（木曜日）までの土日を除いて、中央図書館では6月19日（水曜日）から7月4日（木曜日）までの休館日を除いて展示を行いました。各学校に対しては学校に直接資料を運び、合計7週間、教科用図書の展示を行いました。市民の皆様からも学校からも多くの意見をいただくことができました。

○園田教育長 「教科書選定調査委員会」と「教科別資料作成委員会」という二つの委員会についての説明がありましたが、それぞれの委員会の性格と、どのような専門の人が委員になっているのか簡潔に説明してください。

○荒井統括指導主事 選定調査委員会と資料作成委員会の性格について説明します。

資料作成委員会は各学校の教員の代表からなる委員会です。こちらは選定調査委員会からの要請を受けて開催されています。実際に現場の教員が資料を見ながら、教育委員の皆様目の前にある教科書になりますが、それを実際に見ながら内容について観点に基づいて整理をし、意見をまとめるというところです。

選定調査委員会は、その資料作成委員会が作成した資料が適切なものであるかどうかにつ



いて確認してもらおうところです。こちらの委員のメンバーには各学校からの代表のほかに学識経験者、市民の代表、地域の代表の方に入っていていただいて検討してもらい、最終的に資料をまとめていただいています。

○園田教育長 その二つの委員会を経て本日の会議の資料があるということです。ほかに事務局への質問ありますか。よろしいですか。

本日は教科ごとの採択になります。初めに、選定調査委員長にこの場に説明においていただくようお願いをしています。資料の説明をしていただいた後に教育委員の皆様から質疑をしていただいて、採択ということで進めさせていただきます。本日の教育委員会に至るまでには教育委員協議会も開催し、委員の皆様には教科書について事前にご覧いただき、突っ込んだ意見交換もしていただきました。

では、選定調査委員長に入室をお願いします。

(出張選定調査委員長 入室)

選定調査委員長、よろしくお申し上げます。

○園田教育長 それでは、報告書策定の説明についてお願いします。初めに、今回の選定調査の日程や留意された点、検討の観点などについてお話しください。

○出張委員長 選定調査委員長の出張吉訓です。去る5月14日(月曜日)、7月11日(木曜日)及び7月18日(木曜日)の3回にわたり、教科用図書選定調査のための委員会を開催しました。5月14日の委員会では、「教科別資料作成委員会」に資料作成を依頼したところです。7月11日と7月18日の委員会では、資料作成委員会から作成した資料についての報告を受け、その内容が適切かどうかについて検討しました。その際、報告資料については、東久留米市教科用図書採択要綱実施細目に則り、調査研究の4観点、すなわち各教科書の「①内容のおさえ方」「②構成・分量」「③表現」「④使用上の便宜」の4点を踏まえて調査選定委員会で調査し、本選定調査委員会の報告書を作成したところです。

○園田教育長 ありがとうございます。選定調査委員会で特に話題の中心になったことなどがあればお話しください。

○出張委員長 委員会では実際に児童に指導する場面を想定して、例えば、理科の教科書を検討する際には必要な実験器具が学校に揃っているか。問題なく学習活動を進めることができるのかといったことや、今回は複数の教科書でQRコードが提示されているものがあり、デジタル教科書といった動画などと連動した学習に注目が集まりました。選定調査委員会では、東久留米市の子どもたちのためにという思いで使用教科用図書を実際に手に取りながら活発に意見交換し、今回の報告書のまとめに至っているところです。

○園田教育長 最近、教科書の中身の以外に、子どもたちのランドセルが重いのではないかという話があります。本市の議会でも複数回にわたり、ランドセルが重いことについての対策をとれないかといった質問がありました。また、学校現場においては、学校に置いて帰ってもよい教科書については置いて帰ることも可能だと指導をするようにという話もあります。今回の教科書選定の過程の中で、教科書の重さやサイズについて議論があったのでしょうか。

○出張委員長 見本本を手にとったところ、写真やイラストが増え、分かりやすい教科書になっているという印象を持ちました。同時に、教科書全体が大きくなっているのもその分重いという話題も出ました。しかし、子どもたちの学力向上につながる教科書が最もよいと考えたとページ数や重さだけで判断するのではなく、全体のバランスが大事なのではないかという流れで検討したところです。

○園田教育長 後ほど、教科ごとにおいても必要に応じて重さやサイズについてご説明いただ

ければと思います。また、昨年度に中学校の道徳の教科書を選定した時の資料の中に、いわゆるユニバーサルデザインやユニバーサルフォントについて「使用している、使用していない」という記述がありました。今回の小学校の教科書においては、そのユニバーサルフォントを「使っている、使っていない」という言及がない部分がありますが、各社とも導入済みであるという理解でよろしいですか。

○出張委員長 時代の流れもあり、全社ともユニバーサルデザイン、ユニバーサルフォントの使用を主張していますので、今回はその記述はしていません。

○園田教育長 分かりました。それではこれから教科ごとに審議をしていきたいと思います。「国語」からご説明をお願いします。

○出張委員長 それでは選定調査委員会の資料をご覧ください。教科書番号順にポイントを説明していきます。

先ず【東京書籍】です。「内容のおさえ方」については、発達段階に対する配慮が十分ではないとしました。入門期の教材にしては文字が非常に多く、本市の児童にとって難しいのではないかと考えたからです。「構成・分量」については、単元の構成は適切であるとししました。学習活動の流れが統一されており、児童が学習の見通しを持ちやすくなっているからです。「表現」については、教科の特性に即した表現は適切であるとししました。学習を深める手だてが児童の対話の形で示されているからです。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」については一層の工夫が必要ではないかとしました。ページの割り振りや色で見づらい部分があるからです。

続いて【学校図書】です。「内容の押さえ方」については、発達段階に対する配慮は十分ではないとしました。入門期における50音表を学ぶ時期がかなり早くなっているところがあり、本市の児童においては理解が難しいと考えたからです。「構成・分量」の単元の構成については適切であるとししました。学習を繰り返しながら教材同士を関連させ、スモールステップで理解を深め、定着を図るように考えられているからです。「表現」については適切であるとししました。教科の特性に即した表現の配慮がされていて、読み取りの手がかりとなる絵や写真が取り入れられており分かりやすいからです。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」については適切でないとししました。「学習のポイント」「ふり返り」等の記載はマークではなく、短い言葉にした方が分かりやすいと考えたからです。

続いて【教育出版】です。「内容のおさえ方」では、発達段階に対する配慮は適切であるとししました。各学年の入門期における文学教材において登場人物の心情をつかみやすい内容になっているからです。「構成・分量」の単元の構成については、非常に適切であるとししました。学習の流れが吹き出しや児童の言葉が用いられていて分かりやすいからです。「表現」については、理解のしやすさは適切であるとししました。教材の特徴に即した表現の配慮がなされているということで、対話の場面が想像しやすいようにイラストや対話内容に工夫が施されていたからです。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」については適切であるとししました。写真の発色がよく、見やすい内容になっていたからです。

続いて最後の【光村図書】です。「内容のおさえ方」については、発達段階に対する配慮がなされているとししました。「〇年生で学習する」ことを最初に提示しており、児童に見通しを持たせるとともに既習事項に記載されていて、挿絵が発達段階に見合ったものになっているからです。「構成・分量」の単元構成は適切であるとししました。物語文、説明文が同様の単元構成となっていて、非常に分かりやすい構成になっていたからです。「表現」については、教科の特性に即した表現がなされているとししました。児童の課題が「読む」「書く」

「話す・聞く」の單元ごとに明確に表されていたからです。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」については適切であると思いました。言語單元以外の文字がとても大きく、太さ等も適切で読みやすいからです。

調査選定委員会では総合的に見て、「光村図書」が非常に適切ではないかという方向で話が進んだところでした。

○園田教育長 ありがとうございます。委員からご意見、ご質問いかがでしょうか。

○尾関教育委員 前回の学習指導要領でも「生きる力」というのがキーワードでしたが、今回の学習指導要領でもその枠組は継続されています。これからの社会はどんどん変化し、予測困難な時代になっています。自ら課題を見つけ、自ら考え判断して行動し、自分の未来を切り開いてほしいと思っています。学校で学んだことが、子どもたちの「生きる力」になっていくということが私たち教育委員の願いでもあります。

特に、国語は全ての教科の基礎です。今、中・高校生で教科書が読めないという検証も出ています。基本的な読解力は小学校で身に付けていくべきだと思います。学力向上に向けてより効果的に学習活動を進めていける教科書を選ぶのがよいと思っています。本市の子どもたちはやや国語力は難点があると聞いています。東久留米市の子どもたちの能力を伸ばしていくという配慮が適切に行われているのか伺います。

○出張委員長 そういう観点も見まして、内容的には教育出版社、光村図書が児童の発達段階に適した内容になっていると思っています。特に光村図書の場合は既習事項の掲載もあり、挿絵が発達段階に応じて考えられている工夫がなされていました。一方、東京書籍は入門期の教材に文字が多用されており、児童にとっては難解な内容になっていると考えられます。学校図書も同じく入門期において50音表を学ぶ時期がかなり早くなっていますので、委員が言われていた観点からすると難しいと思います。

○尾関教育委員 教科書をいろいろ読んだ中で、旧来の材料というか作品を参考しているところが多い中、最近の評論家の書き下ろしがありました。子どもたちが興味を持てるものかどうか必要ですので、そういう観点からも選んでいきたいと思っています。

○園田教育長 そのほかいかがですか。

○宮下教育委員 東京都教育委員会では「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を公表しました。東久留米市においても「学習定着度調査」の結果を公表しています。残念ながら国語については、本市は東京都の平均値を下回る結果でした。特に、配当されている漢字を文脈に即して読み取ることと、二つの資料の内容の比較関係づけて読み取ること、そこに課題があることが教育委員会の報告から分析されています。これらを解決していくには、単元構成の工夫や教科の特性に即した表現の配慮が必要です。そのような観点から見てお気づきのことがあれば伺います。

○園田教育長 委員長、お願いします。

○出張教育委員 単元構成についてはどの出版社もそれぞれの工夫が見られました。とりわけ、東京書籍については学習活動の流れが統一されていて、児童が学習の見通しをもって主体的に取り組める内容になっていました。また、学校図書については学習を繰り返しながら教材同士を関連させ、スモールステップで理解を深め、定着を図れるようにつくられていました。次に、教科の特性に即した表現の配慮についてですが、これについてもどの出版社も適切でした。例えば教育出版では対話の場面が想像しやすいような挿絵を使用されており、内容に工夫が施されていました。

○宮下教育委員 ありがとうございます。東久留米市の子どもたちの国語力の向上を期待し

て、私たち教育委員もやまないところです。

- 園田教育長 よろしければ採択に入ります。採択は厳正を期すために無記名の投票としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

では、そのようにさせていただきます。なお、決定につきましては、ご承知のとおり地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条の4項に「教育委員会の会議の議事は出席者の過半数で決する、ただし、可否同数のときは教育長の決するところによる」となっていますので、同数の場合は私が決定させていただくという取り扱いにさせていただきます。

それでは投票方法について、事務局から説明をお願いします。

- 佐川教育総務課長 教育長と教育委員4人の方々に投票用紙をお配りします。判断された教科書発行者名の欄に1社のみ「○」を付け、投票箱に入れていただくようお願いします。

「国語」以降の教科においても同様をお願いします。回収されました投票用紙はその場で開票し、結果を発表します。

それでは、投票用紙をお配りください。投票箱は空になっています。

（投票用紙配付）（投票・開票）

結果を発表します。光村図書5票。

- 園田教育長 「国語」については光村図書となりました。次に、「書写」の説明をお願いします。

- 出張委員長 「書写」を説明します。資料をご覧ください。

最初に【東京書籍】です。「内容のおさえ方」については、発達段階における配慮は適切であるとしました。各学年で取り扱う文字や文章が児童の実生活に合っているからです。

「構成・分量」の単元の系統性については、一層の工夫が必要であるとしました。1年生の名前の書き方や2年生に似ている文字の学習などがあり、内容の配列を変えた方がよい部分があったからです。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」については、適切ではないとしました。教科書がAB版のため、毛筆の道具とともに机の上に置きにくいからです。水書シートは1～2年生の巻末に付けられていました。3年生の毛筆への導入に十分に比べられる内容と考えます。

続いて【学校図書】です。「内容のおさえ方」の発達段階における配慮は適切であるとしました。鉛筆の持ち方や姿勢が分かりやすいようにつくられていたからです。単元の系統性についても手本の難易度が順当な内容になっていました。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」については適切ではないとしました。折り込みのページがあり、使いにくいと考えたからです。また、水書シートは付けられていないので、3年生の毛筆への円滑な導入にやや課題があるのではないかと考えました。

続いて【教育出版】です。「内容のおさえ方」の「発達段階に対する配慮」については、不十分であるとしました。1年生の入門期に非常に情報量が多く、ポイントを押さえづらい内容になっていたからです。「構成・分量」の「単元の系統性」についても不十分であるとしました。例えば、3年生で学習する「力」という字の場合に「おれ」と「はね」の部分が同時に出ていて、非常に難易度が高い状態になっていたからです。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」については、一部分は十分であるとしました。教科書のサイズがB5版で、児童の机に置いたときに邪魔にならないからという程度です。水書シートは1～2年生の巻末に付いており、3年生と毛筆の導入に十分に対応できるようになっていました。

続いて【光村図書】です。「内容の押さえ方」については、発達段階に対する配慮がなさ

れているとしました。「書くときのしせい」や「筆の持ち方」などの写真が大きく、指導内容も絞られていたからです。「構成・分量」の「単元の系統性」については記述に一貫性があり、紙面の構成が統一されていて、適切であるとしてきました。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」については適切であるとしてきました。大切なポイントをマークで示しており、他教科や硬筆との関係を示しているからです。水書シートは1年生の巻末にのみに付けられており、2年生の教科書にもあれば効果的だと考えました。

続いて【日本文教出版】です。「内容の押さえ方」の「発達段階に対する配慮」については適切であるとしてきました。特に3年生の毛筆の入門期の指導では、点画の種類が豊富かつ指導が段階を追って丁寧になされているからです。「構成・分量」の単元の系統性は適切であるとしてきました。単元が進むごとに既習の内容を踏まえながら学習が進む構成になっていたからです。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすか」は適切であるとしてきました。教科書のサイズがB5版で、児童の机に置いたときにちょうどよいサイズだからです。水書シートは1～2年生の巻末に付けられており、3年生の毛筆への導入に十分であると考えました。

選定調査委員会では、総合的に見まして「光村図書」が適切なのではないかという方向で話が進みました。

- 園田教育長 ありがとうございます。委員からご意見、ご質問いかがですか。
- 細田教育委員 墨を使って文字を書く書写の授業は、日本の伝統文化の一つを学ぶ大切な機会だと思います。初めて学ぶ子どもたちが学びやすいように、教科書が見やすくて使いやすいとよいのではないかと思います。どのような工夫がされていましたか。
- 出張委員長 光村図書と日本文教出版が、初めて学ぶ子どもたちに対しては配慮がなされていました。とりわけ光村図書は大切なポイントを先ほど申しましたマークで示しており、他教科や硬筆という関連を示し主体的に取り組めるように配慮がされていました。東京書籍、学校図書及び教育出版はその点が不十分でした。とりわけ東京書籍は教科書のサイズが他社より大きくなっており、児童に机に置いたときにはみ出して使いづらいのではないかと考えました。
- 細田教育委員 机の上で書く練習をするわけですから教科書のサイズも気になります。
- 園田教育長 そのほかよろしいですか。
- 馬場教育委員 光村図書だけに1年生の巻末に水書シートが付いていますが、この点はどうですか。
- 出張教育委員 できれば2年生にも付けてもらえるとよいとは思いますが、1年生で押さえておけば大丈夫だと思います。
- 馬場教育委員 ありがとうございます。
- 園田教育長 そのほかいかがですか。よろしければ投票に入ります。
- 佐川教育総務課長 それでは投票用紙をお配りします。投票箱は空になっています。

(投票用紙配付) (投票・開票)

結果を申し上げます。光村図書5票です。

- 園田教育長 「書写」は光村図書となりました。続いて、「社会」の説明に入ります。お願いします。
- 出張委員長 「社会」です。資料をご覧ください。

最初に【東京書籍】です。全体を通して、新学習指導要領でも明記されるようになった学習問題を解決するための学習過程、すなわち、問題解決的な学習を進めるための工夫が多くされていました。「内容の押さえ方」については、発達段階に対する配慮が適切になさ

れているとしました。見開きで1単位時間の内容として左に写真、右に詳しく調べる資料になっており、授業の流れに沿っていて、問題解決的な学習の流れに沿っていると思いました。「構成・分量」については、児童の意欲を高める教材や資料の工夫があり、「つかむ→調べる→まとめる」のどの段階を学習しているのかが一目で分かる工夫がなされるなど、学習内容と学習の進め方のどちらも理解を深めるつくりになっていました。同様に、その単元の構成の「つかむ→調べる→まとめる」が毎時間明記されていますので、記述が一貫性をもって適切であると考えました。学習の視点ですが、キャラクターで記号化され、分かりやすく示されていました。児童が使いやすく工夫がされていると考えます。学習を補助するためにインターネットを活用できる「Dマーク」が示されていました。

続いて【教育出版】です。全体を通して、学習指導要領でも明記されるようになった学習の問題を追究・解決する活動がはっきりと示されていました。特に、学習計画を考える時間の内容が「予想」「調べること」「調べ方」と丁寧に例示されていることで、見通しをもって授業に臨むことができると考えました。教材や資料を分かりやすく、写真やイラストが順序よく整理され児童がイメージしやすいようになっていました。また、児童の学習に不可欠なまとめ方も多様に示されていました。写真の再掲載により、学習計画と調べる段階の児童の思考が一致するよう工夫されていました。発達段階に対する配慮も適切であると考えます。また、二次元バーコード「まなびリンク」が掲載されており、調べ学習が進めやすいような便宜が図られていました。

続いて【日本文教出版】です。全体を通して、学習指導要領でも明記されるようになった学習の問題を追究・解決する活動や問題解決的な学習を進めるための工夫が多くなされていました。興味・関心を引き出す工夫も適切に行われていました。調べる段階の学習内容を示すページの写真資料の量が適切で、多くの情報を児童自らが関連づけて考えることができると考えたからです。学習活動が進めやすいように便宜が図られている点も工夫の一つであると考えます。国宝や世界遺産がマークで示されており、一目で分かるようになっていました。一方、学習問題を考える場面や調べる場面で児童の気づきや疑問を掲載するページ量が多く、その分知識的説明が足りないと感じる箇所もありました。

これらの結果、選定調査委員会では総合的には「東京書籍」が使用に適しているのではないかという方向で話が進んだところです。

- 園田教育長 ありがとうございます。ご意見、ご質問いかがですか。
- 尾関教育委員 新学習指導要領では、アクティブ・ラーニングや話し合い活動が明記されており、自ら学ぶ態度が求められています。先生たちが非常に大変だと思いますので、先生が使いやすいように工夫をしている教科書はありますか。
- 出張委員長 東京書籍では、学習問題を立てる場面などを話し合う様子が多く掲載されているという工夫がありました。与えられた課題について話し合うのではなくて、学習問題を考える段階から話し合っている点が、これからの学び方につながる取り組みで有益ではないかと考えています。また、教育出版は、吹き出しの形式で会話や話し合いの様子を掲載しています。どんな発言をしたらよいか迷ってしまう児童にとっては、良い見本になると考えています。日本文教出版も単元のまとめで調べてきたことを話し合っ共有する場面が多数示されており、これからの学習に合わせた形で教科書各社工夫をしているところが見られました。
- 尾関教育委員 そういう観点から選んでいきたいと思います。ありがとうございます。
- 園田教育長 社会は全部重いですね。東京書籍が分冊になっている分、少し軽いですかね。よろしければ採択に入らせていただきます。投票用紙をお配りします。

○佐川教育総務課長 それでは投票用紙をお配りします。投票箱は空になっています。  
(投票用紙配付) (投票・開票)

結果を申し上げます。東京書籍4票、日本文教出版1票です。

○園田教育長 「社会」は東京書籍になりました。続いて「地図」の説明をお願いします。

○出張委員長 「地図」について説明します。資料をご覧ください。

まずは【東京書籍】です。児童に活用させる上で不十分なことはないと思います。また、写真や絵を効果的に活用し、場所や建物をイメージしやすい内容になっており、教科書と合わせて学習する資料としては活用しやすくなっています。学習活動が進めやすいような便宜が図られていました。「使用上の便宜」については、インターネットを使った学習ができるようページには「Dマーク」が示されており、授業で活用しやすい点も工夫があると考えました。

続いて【帝国書院】です。「内容のおさえ方」については、発達段階に対する配慮は適切であると思いました。「広く見渡す地図」があったり、「地図の使い方」などページが十分であり、非常に活用しやすい内容になっていたからです。大きな地図を取り入れ、地図を俯瞰して見られるように工夫していました。また、地図帳の大きさを変え、3年生からでも使いやすいものになっていました。興味・関心を引き出す内容としては、「地図マスター」が掲載されていました。児童の発達段階に合わせた問題がどのページにも示されており、地図をよく読むことにつながると言える内容です。学年に応じたページ(我が国の産業や貿易、歴史)が巻末にあり、児童の興味・関心を引く内容であると思います。また、資料集に近い側面を持っており、資料としても活用できるという利点がありました。

このことから選定調査委員会では、総合的には「帝国書院」が使用に適するのではないかとこの方向で話が進んだところです。

○園田教育長 ありがとうございます。ご意見、ご質問いかがでしょうか。

○尾関教育委員 今回の教科書では3年生から地図を使つての学習が始まると聞いています。最初に使う地図が使いにくくて、子どもが興味を失ってしまつては元も子もないと思うのですが使いやすいとはどういうことを指しますか。

○出張委員長 帝国書院は「広く見渡す地図」を取り入れるなどして、3年生からでも分かりやすく活用できる構成になっています。東京書籍も地図としての使いやすさは十分あり、資料編も工夫されていました。委員のご指摘のとおり、今回3年生からでも使いやすいという視点は重要なポイントであると考えています。

○尾関教育委員 社会と出版社が違うということで使いにくいことはありませんか。

○出張委員長 一致していなくてもよいと思います。内容構成や使いやすさの面でどちらがいかを考えていただけると、子どもたちのためにはなるのではと思います。

○尾関教育委員 分かりました。ありがとうございます。

○園田教育長 そのほかいかがですか。

○馬場教育委員 両方の地図とも見ているだけでも楽しいというか、興味が湧く地図帳になっています。私は子どもたちと接している先生方の意見を大切にしたいと思いますが、個人的には3~4年生が帝国書院で、高学年になったら東京書籍が子どもたちには合っているのではないかと感じました。しかし、学年ごとに教科書を変えることはできないので判断は難しいです。

○園田教育長 帝国書院の地図には伊賀に忍者がいたり、和歌山にパンダがいたり、ということですね。ほかにいかがですか。

○宮下教育委員 先ほど尾関委員から、社会科の教科書と地図が別だったら使いやすさの点でどうかというご質問がありました。しかし、帝国書院は社会科の教科書を出していませんので、その論議はナッシングにする必要があります。気づいたことを申し上げました。

○園田教育長 よろしければ採択に入ります。投票用紙をお配りします。

○佐川教育総務課長 それでは投票用紙をお配りします。投票箱は空になっています。

(投票用紙配付) (投票・開票)

結果を申し上げます。帝国書院 5 票です。

○園田教育長 「地図」は帝国書院となりました。続いて「算数」の説明をお願いします。

○出張委員長 「算数」の資料をご覧ください。

最初に【東京書籍】です。「内容のおさえ方」の三つ目ですが、目次で既習とのつながりや単元名を示していたり、図・絵・点線等で整理もされており、さらに、教科書に書き込みノートとして扱える大きな紙面もあるなどの工夫がされていました。「表現」については、コンパスの動きが矢印風の書き込み作図の方法でメージしやすい内容になっていましたが、問題分とまとめの部分が同じ背景色であることから、非常に混同しやすいのではないかとこのところが難点でした。問題の解き方のイメージが湧きやすい内容になっていますが、見方や考え方の育成には生活課題を解決する例を増やすなどの改善があれば、もっといいものになったのではないかとしました。導入教材については、クイズ的で題材が多いことや説明後に理解を深める問題数が少ない点など、ページによっては文字数が多く意図が見えにくい箇所などがあったところも難点でした。

次に【大日本図書】です。「内容のおさえ方」については、興味・関心を引き出す内容は適切であるとしました。学習風景の写真や教師の発問や児童の発言を用いた学習過程を掲載していて、1 単位時間の展開をしやすいものになっていたからです。教師の発問、児童の発言を振り返りながら、算数の学び、活用態度を育みやすいのではないかと考えました。「構成・分量」についても適切であるとしました。確かめの問題に基礎基本、応用発展が並列しており、幅広く児童の学習状況に対応できるものになっていたからです。「表現」については単元の最初に学びの写真やノートのマス目を背景にして、分かりやすく例示する工夫がされており、理解しやすい状況になっていました。ただし、全学年のまとめがカラフル過ぎて見づらい点があります。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」については適切であるとしました。全ての学年が一冊であるため、既習事項の振り返り等で使用する機会を考えると適切ではないかと考えました。

続いて【学校図書】です。「内容のおさえ方」については、発達段階に対する配慮は適切であるとしました。問題解決のスタートの目当てとゴールのまとめがつながりのある記述になっており、理解の支援になると考えたからです。「構成・分量」については、発達段階に応じた分量は適切であるとしました。難易度の系統性の類題があり、応用発展問題が取り上げられたため、主体的、対話的、深い学びにつながると考えました。「表現」については、教科の特質に即した記述は適切であるとしました。「導入」では学ぶ意義を感じる問題や式や垂直線、関係図、矢印、色分け等を言葉だけでなく載せていたからです。「使用上の便宜」では板書の仕方を参考にしたノート指導を取り入れるなど、理解を促すための内容量の増加分についてはサイズを大きくする対応をしています。興味・関心を高めて思考力・表現力を育みやすいと考えています。

続いて【教育出版】です。「内容の押さえ方」については、発達段階に対する配慮は適切であるとしました。算数的活動の過程である「はてな なるほど だったら」と児童が捉え



やすい言葉を使っており、教材扱いの中では「学びのマップ」のまとめが簡潔で、基本から応用へと系統的な構成であり、適切な問題量だと考えています。「表現」については、理解のしやすさが適切ではないとしました。書き込み枠が小さくて、使いにくいと考えたからです。「使用上の便宜」については、全体構成が見通せる記述にしていることは適切であるとしてしました。算数が好きになる初めの一步である学年当初にトピクスを用いて、学習の進め方を体験できる内容になっているからです。適切な情報量と児童が親しみやすい内容の構成は、主体的な学習を引き出す上でもよいと考えています。

続いて【啓林館】です。「内容のおさえ方」については、発達段階に対する配慮は適切であるとしました。算数で学んだことを学習に活用するために「やってみよう」「わくわく算数ひろば」など、児童が学ぶ学習を振り返って活用する場面を設定しているからです。「構成・分量」については、単元の構成が適切ではないとしました。既習事項の振り返りが教科書の最後に配列してあるところは問題があると感じました。「表現」については、教材の特質に即した表現が適切であるとしました。なお、情報資料の活用が求められている時代にQRコード付きの工夫がしてあるのは評価できますし、1単位時間の学習の展開など教師が把握しやすい教科書であると考えました。

最後の【日本文教出版】です。説明を促す指示文や関心を引き出す説明問題で意欲を高められるようになっていきます。問題量は豊富で、発達段階を配慮したヒント等の工夫がなされていました。イラストや写真は適切ですが、用語の定義やまとめの重点事項が他の記述と区別がつきにくい点がありました。学習内容の定着に応じて、豊富な問題数を選択して授業や家庭学習で活用していければ思考力・表現力が育まれるのではないかと考えています。

これらの結果から、選定調査委員会としましては総合的には「学校図書」が使用に適切ではないかという方向で話がまとまったところです。

○園田教育長 ご意見、ご質問はいかがでしょう。

○宮下教育委員 子どもたちのつまずきに大きな差が出る教科が算数だと認識していますので、私は算数の教科書については特に心を入れながら分析しました。市役所の閉庁日は庁内がとても静かですので、弁当持参で午前・午後をかけてじっくり教科書を研究させていただきました。先ほどの国語の教科書採択の時にもお話をしましたが、東京都教育委員会による「児童・生徒の学力向上を図るための調査」や本市の「学習定着度調査」の結果のいずれにおいても、東京都の平均値に対して大きな差が生じているのは算数でした。特に四則演算の掛け算、割り算、足し算、引き算の混合した演算の調査結果は大変低い状況にあります。例えば、 $10 - 3 \times 2$  や少数 $\times$ 少数の計算において乗数が1よりも小さい数の場合は数量や図解に関する技能についての問題になりますが、数学的な見方や考え方についての課題が分析されていました。これらの解決には理解を深めるための内容の工夫が必要だと考えますが、そのような観点からお気づきになったことはありますか。

○園田教育長 委員長、お願いします。

○出張委員長 算数の基礎的・基本的な学習内容を定着させるため、調査委員会の中では、委員が言われたように練習問題の量が重要ではないかという意見がありました。式を考える問題や作成させる問題が提示されていることも工夫の一つと言えらると思います。巻末に児童の習熟に応じた練習問題を掲載するのが一般的ですが、学校図書や東京出版はそのページが比較的多くありました。日本文教出版はその量が逆に多過ぎて、授業中に扱い切れるかが心配なぐらいでした。考え方を定着させるには書くことで理解を深めさせることもあるため、ノートの取り方の指導も必要だと考えています。各教科書とも児童が使用するノートと同様に

マス目入りの枠を示しており、正しい数字の書き方ができるような工夫がされていました。中でも学校図書については板書の仕方を参考にしたノート指導を取り入れており、使いやすさのように見えました。

- 宮下教育委員 ありがとうございます。教科書をもとにしながら私の意見を申し上げさせていただきます。かつて“分数の計算ができない大学生”のことが物理学会で大いに論議された時がありました。私も学生を教えながらも、幾度となく同様なことを感じる場面がたくさんありました。それならば大学入試の問題に分数の問題を出題したらいいのではないかという論議もされましたが、残念ながらそのような大学は一つもありませんでした。プライドの問題だろうと私は思っています。しかし、入学後の教養講座や基礎講座のような授業の中で分数ドリルを履修させた大学があるといううわさを聞いたことがあります。分数の掛け算や割り算は分数×整数、分数÷整数、分数×分数、分数÷分数など一気に学習することになります。子どもたちがどこかの時点でつまずいても授業はどんどん先へ進んでいってしまいますので、分からないまま単元が終わってしまうのではないかという危険性があると感じています。

確かに分数の掛け算と割り算については、各社とも展開の工夫に努力がありました。調査委員会委員の中にも私の意見同様、難しい単元だと感じているとの発言があったと伺っています。教科書を閲覧された市民の方からも、同様の意見が寄せられています。それだけに、子どものつまずきが出やすいところだと思っていますので、私もとても慎重に分析しました。例えば、この「東京書籍」の教科書です。6年生の「分数」のところだけを見ますと、分数を扱っているのが34ページから69ページまでととても多くのページを割いています。分数、分数と続きますので、一度つまずいてしまうとそのままの状況が続いてしまうのではないかと、細かく見れば見るほど心配があります。「学校図書」はどのように考えているかというと、ずっと分数計算が続くのではなく、子どもたちに意識の醸成をしています。「分数もかけ算ができるの？」というタイトルです。「そうか、分数にも掛け算があるのか」と、子どもたちの意識を醸成しています。その次を見ると、「分数同士のかけ算ってどんな意味があるの？」という意識形成し、さらに、「分数÷分数の計算ってあるの？」と、子どもたち疑問を投げかけています。難しい単元をそのようにして子どもたちに意識の醸成育みながら、自分たちで取り組んでいこう、自律的に学習させようという試みだと理解しました。これはとてもうれしい工夫です。子どもたちが自分でつまずきを解決するために大変すばらしい取り組みがされていたので、感想を述べました。

- 園田教育長 ありがとうございます。そのほかよろしいですか。
- 細田教育委員 各学校には特別な支援を必要とする子どもたちがいます。文字ばかりですと理解が十分にできなったり、逆にイラストが多過ぎると目移りしてしまったりすると思います。そうした子どもたちに配慮をしている教科書があるといいと思うのですが、子どもたちが学習する上での配慮などはされていたか。
- 出張教育委員長 委員のおっしゃるとおり、今はユニバーサルデザインが重視されますので、各社とも工夫しています。算数ばかりではなく全教科でユニバーサルデザインが取り入れており、優しい色使いの教科書が増えていました。算数の場合ですが、比較してみると図形やグラフは色を統一して配色した方が理解の助けになっています。以前の教科書と比べると、計算を説明する図式などが派手な色使いではありません。最新の情報が利用されているのも工夫として上げられると思います。
- 細田教育委員 宮下委員のご指摘にもありましたが、算数そのものの学習につまずく児童に

はしっかりと定着させて、苦手感を取り除けるようにしたいという思いは自分にも同様にあります。発達課題を持つ児童に対して学習意欲への刺激となるように、大版の教科書を使うということもあるのかなと思い質問しました。

○園田教育長 そのほかよろしいですか。それでは採択に入ります。

○佐川教育総務課長 投票用紙をお配りください。投票箱は空になっています。

(投票用紙配付) (投票・開票)

結果を申し上げます。学校図書5票です。

○園田教育長 「算数」は学校図書となりました。続いて「理科」に移ります。説明をお願いします。

○出張委員長 「理科」の説明をします。資料をご覧ください。

先ず【東京書籍】です。「内容のおさえ方」ですが、教材の資料は分かりやすいとしました。教科書のサイズがA4判と大きいため、写真も大きく見やすいからです。「構成・分量」については、単元の構成が適切ではないとしました。「考察」があったりなかったり、また、問題が左ページや右ページにあったりという使いづらさがあつたからです。「表現」についても適切ではないとしました。文字の大きさが小さく、1ページの中に文・図・写真を詰め込み過ぎているからです。「使用上の便宜」についてですが、全体の構成が見通せるよう配慮がされておらず、全体的に見づらいと考えます。教科書のサイズが大きいと資料が見やすくはなりますが、現状の児童の机には大き過ぎて使いづらいからです。また、1ページに占める情報量も多く、児童にとって分かりづらいのではないかと思います。

続いて【大日本図書】です。「内容のおさえ方」については教材や資料が適切で、明快に分かりやすくなっていました。適切な写真や絵を効果的に使用し、児童が問題をイメージしやすいようになっていました。「構成・分量」については、発達段階に応じた分量は適切であるとしました。行間が広くとても読みやすい内容になっていたからです。「表現」については理解のしやすさが適切であるとしました。「予想しよう」では幾つかの例示がされているため、その後の学習の流れが分かりやすくなっていました。「使用上の便宜」については全体の構成が見通せるよう十分配慮されており、バランスよく見られました。問題解決の流れがとても分かりやすくまとめられており、児童にとって取り組みやすい内容であると思います。1ページに示す情報量も適切で理解しやすいものとなっていました。

次に【学校図書】です。「内容のおさえ方」については、発達段階に対する配慮は十分ではないとしました。3年生の段階から問題文として「どうして何々だろうか」とか「どのように何々だろうか」という発問が多く出ており、児童の言葉で結論を導くには非常に高度であるからです。「構成・分量」については、単元の構成は適切であるとしました。各単元の流れが分かりやすく、「1問題、2予想、3観察・実験、4結果、5考察、6分かったこと」と統一されて構成になっていたからです。「表現」については一貫性を持った記述が工夫されており、ノート例のレイアウトなどが提示されていました。「使用上の便宜」については、学習活動が進めやすいような便宜が図られていました。映像等で示した方がよいものについてはQRコードを付け、スマートフォンやタブレットでも活用できるようになっていました。全体的に構成が見通せる配慮が随所であり、各単元が問題解決の流れに沿った構成で統一されていました。どの学年も基礎的・基本的な内容がしっかり学習できるように紙面構成されており、覚えるべき科学用語等もはっきりと分かるようになっていました。ただし、学習したことがどのように身の回りの生活に生かされているのかの例示は少なかったです。

続いて【教育出版】です。「内容のおさえ方」については、発達段階に対する配慮は適切

であるとなりました。身の回りの話題を紹介して、興味・関心を引きつけるものになっていたからです。教材資料も分かりやすく、巻末に「生き物ミニ図鑑」など授業などで活用しやすいものが載せられていました。「構成・分量」については、単元の構成が適切でないとしました。問題が提示されているすぐ下に結論が書かれており、答えがすぐに分かってしまうため配慮が必要だと考えました。「表現」については一貫性を持った記述がなされており、単元ごとに中学校へつながる学びとしての記述もされていました。「使用上の便宜」については、学習活動が進めやすいような便宜はなされており、各学年とも理科の実験をするに当たっての安全の手引きが巻末に整理されているという工夫がありました。また、理科の学習の流れをイメージできるよう挿絵を活用し、理科学習の思考の流れを強調していました。随所に他の教科で学習した関連性が表記されていますが、全体的には見づらい部分がありました。

続いて【啓林館出版】です。「内容のおさえ方」については、興味・関心を引き出す内容が適切であるとなりました。各単元既習事項を記載させる学習や学習の目当てが明確になっていたからです。教材や資料は分かりやすい内容になっており、巻末に「月の満ち欠けモデル」や「プログラミング用シート」などが工夫されていました。「構成・分量」については、単元の系統性は適切であるとなりました。巻末には1年間の学習の流れが分かるように付けられていました。「表現」については、理解しやすい工夫がされていました。日常生活などを思い出す場面が工夫して構成されていました。「使用上の便宜」については習活動が進めやすい便宜がされており、水溶液などの単元前に安全指導をまとめて整理させているなどの工夫がされていました。そういう観点から、理科を初めて学習する3年生には、理科学習のポイントや学習の目当てを明確にして教科書構成がされていると感じました。また、巻末に「器具の使い方」や「理科で活用する算数で学習した内容」などの記述があり、より理科学習に活用しやすいと考えました。

選定調査委員会では、総合的には「大日本図書」が使用に適切ではないかという方向で話が進んだところです。

- 園田教育長 ありがとうございます。ご意見、ご質問いかがですか。
- 宮下教育委員 従来から小学校の理科は問題解決の過程を通じた学習活動を重視してきました。問題解決の過程としては自然の事物、現象に対する気づき、その気づきから子どもたちは問題の設定をする。その問題設定に基づいて予想や仮説の設定を行い、自分たちで実験の計画を立案して結果の処理をし、考察・結論といった過程がよく考えられます。この問題解決の過程において、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確し、指導の改善を図っていくことが重要となってきます。このことについてお気づきになられたことはありますか。
- 出張委員長 問題解決の学習過程づくりについては、各社とも工夫をしていました。教科書全体のフォーマットとしては、学習の流れが分かりやすく、理科で最も重視しなければならない、委員が言われたような実験や考察の時間が十分とれる構成という点では、大日本図書出版の教科書が非常にシンプルで授業計画を先生方がつくりやすい内容でした。
- 宮下教育委員 「理科とはどんな教科だと思えるか」ということを、私は学生によく質問します。「理科」の学習には実験や観察が必ず入っていますが、これは他の教科には全くないものですので、そこに大きな特徴があると思います。しかし、「観察や実験をしていれば理科の授業をやっているのか」というと、私はそうであってはならないと思います。と言いますのは、観察や実験というのは、自分たちがもった質問や問題を自分で解決するための手立て・手法であって、それが観察や実験でなければいけないというものではないからです。つまり、自分が感じたり、もった問題や疑問を自分たちで解決することによって、初めて子ども

もたちの科学性が伸びていくからです。

○園田教育長 そのほかいかがですか。

○馬場教育委員 教科書を見ると私が小学生だった時よりもどの教科書もとても見やすく興味湧きやすく、身近なことが取り入れられていると感じました。小学3年生から生活科に代わり理科の学習が入りますが、生活科の学習で学んだことや日常生活の中で気づいたりしたことが、今度は「理科」という学びに続き、より理論的なもの、科学的なものになっていくのだと思います。学校図書のように身の回りの生活にある例示が少ないのはどうなのかという思いもあります。生活科から理科への流れが、子どもたちにとって自然に行われるといいなと思います。

○出張委員 身近な生活という実態から概念的なものに持っていくことも大事だと思います。ただ今のご発言は、日常生活の気づきから形成された素朴概念を科学的概念に変容させていくにはどうしらいいかというご意見だと思いますが、これについて各社とも工夫をしてくれています。特に、啓林出版では小学3年生の導入のところで学習の目当てを明確にし、学習内容が見通せるつくりになっていますので、この辺は非常に工夫されていると思います。

○馬場教育委員 素朴概念から科学的概念の形成に向けては、生活科から理科になったときに苦手になったりしないように素朴概念がいっぱい育ち、気づくことが楽しいと思えるような実験や、先ほど宮下委員が言われた観察を通して、「理科」はとても身近なものなんだということが分かるような教科書がよいと思います。

○園田教育長 理科の教科書を見ると美しい写真が多いですね。個人的な感想ですが、虫や昆虫等の扱いが苦手な子もいると思いますが、「学習」ということで考えていくしかないでしょうか。教科書によっては昆虫や幼虫がアップになっていて、ざわめいてしまうのではないかと思います。

○出張委員長 先ほど委員が言われたように、そこが生活実態のところだと思うのです。日本の生活環境全体が清潔できれいになってきていますので虫や昆虫を身近に感じないかもしれませんが、われわれはそういう生き物と共存しているのだということを理解するには、写真だけではなく実体物を見て勉強するのが大事だと思います。各学校で工夫をしていただけると思っています。

○園田教育長 そのほかご質問いかがですか。よろしければ採択に入ります。

○佐川教育総務課長 投票用紙をお配りします。投票箱は空になっています。

(投票用紙配付) (投票・開票)

結果を申し上げます。大日本図書5票です。

○園田教育長 「理科」は大日本図書となりました。続いて「生活」の説明をお願いします。

○出張委員長 先ず【東京書籍】です。「内容の押さえ方」については、発達段階に対する配慮は概ね十分であるとししました。入門期において写真が多く文字が少なく、1年生でも目で見て分かりやすい内容の押さえ方になっていたのであります。「構成・分量」については、発達段階に応じた分量は適切であるとししました。情報量がちょうどよく、指導しやすい内容になっていたのであります。「表現」については、教科の特性に即しているかどうかについては十分ではないとししました。写真は大きくて見やすく、全体的に色合いが柔らかいですが、色の薄さを感じました。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」については十分ではないとししました。写真は大きく見やすいのですが、本のサイズがA4版と大きくて、小学生の1年、2年の児童の小さい手では少し持ちにくいと感じたからです。

続いて、【大日本図書】です。「内容の押さえ方」については、発達段階に対する配慮が

されているとしました。分かりやすい平易な言葉を使っており、発達の段階に応じたカードの記述例が多く記載されていたからです。入門期には幼児期からの円滑な接続が図られるような工夫もされていました。「構成・分量」については、単元の系統性は考慮されているとしました。例えば、2年生の春の遊びでは、遊び発見が1年生の時の内容より深いものになっており、3年生以降の社会や理科への接続を意識した内容になっていたからです。「表現」については、教科の特質に即した表現はされていたとしました。児童が活動していく上での気づきや思考の助けとなるような言葉が、挿絵の児童の言葉として書かれているところなどの工夫が見られたからです。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」は適切であるとしました。見開き2ページを効果的に使ったレイアウトで、見やすいからです。行間、文字の大きさもちょうどよいということで、写真も非常にきれいでした。

次は【学校図書】です。「内容の押さえ方」については、発達段階に対する配慮は概ね十分であるとしました。写真や文字が大きくて、学習カードも記載の枠も工夫されていたからです。ただし、カードの文字が小さく、読みづらいところがありました。「構成・分量」については、発達段階に応じた分量は適切であるとしました。文字数もちょうどよい分量でした。「表現」については教科の特質に即した表現は適切であるとしました。考えるヒントがイラストとともに書かれていたからです。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」については、工夫を要するとしました。写真やイラストは豊富ですがイラストに特徴がある容姿や体型が出ている児童が描かれており、人権上の配慮はどうかという感じを受けました。

続いて【教育出版】です。「内容の押さえ方」については、発達段階に対する配慮は概ね十分であるとしました。写真や文字が大きく文体も工夫され、見やすく、ちょうどよい情報量であったからです。「構成・分量」についても発達段階に応じた分量で適切であるとしました。「表現」については、理解のしやすさは概ね適切であるとしました。しかし、写真やイラストが豊富ですが、少し見にくい配列の箇所がありました。「使用上の便宜」の「全体の構成が見通せるよう配慮しているか」については不十分であるとしました。上巻に目次がありますが、どこにあるか探しにくいからです。

次に【光村図書】です。「内容の押さえ方」については、発達段階に対する配慮も十分であるとしましたが、教材や資料は一層の工夫が必要だと思っています。モルモットを中心に扱っており、小動物を飼育していない学校が多い現状ではどうかということがありました。「構成・分量」については、発達段階に応じた分量は適切であるとしました。情報量もちょうどよく、指導しやすい量になっています。「表現」については、理解のしやすさは概ね適切であるとしました。イラストが多く、分かりやすいからです。ただし、「どうすれば」の記述が学習内容に関わらないことも書かれていて、その箇所は扱いにくいのではないかと考えました。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」については十分ではないとしました。書き込み用のシールが付いているのですが実際にはシールではなく直接書き込んだ方が扱いやすい面もあり、そのようなところが十分ではないと判断しました。

次は【啓林館】です。「内容の押さえ方」ですが、発達段階に対する配慮は概ね十分だとしました。生き物への興味や関心を高めるような写真やイラストが多くあり、目で見て分かりやすいようになっていますが、もう少しインパクトのある写真があると良かったのではないかと考えました。「構成・分量」については、発達段階に応じた分量は適切であるとしました。文字量はちょうどよく、指導もしやすいものになっていたからです。「表現」については、教科の特性に即した表現は適切であるとしました。児童が自発的、自主的に取り組めるよう、題材名のネーミングなどに工夫がされていたからです。

続いて【日本文教出版】です。「内容の押さえ方」については、発達段階に対する配慮が十分ではないとしました。上巻の最初から文字が多かったからです。「構成・分量」については、発達段階に応じた分量は適切であるとしてしました。紙面の情報量が適切で、写真や絵も大き目で見やすくなっていたからです。「表現」については教材の特質に即した表現はされており、各ページに児童の気づきを促すようなセリフが記載されていました。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」についてはクエスチョンが付いています。先ほど申しましたが、情報量が多いページがあることなどからです。また、巻末の「ちえとわざのたからばこ」については、記載しなくてもよい内容ではないかということが話題になっていました。

調査選定委員会では総合的に見て、大日本図書の使用が適切ではないかという方向で進んだところです。

- 園田教育長 ありがとうございます。ご意見、ご質問いかがですか。
  - 尾関教育委員 理科の教科書採択の時に馬場委員が発言されましたが、次の段階の理解につながる教科であることが大切ですので、そういう教科書があるとよいと思いました。また、学習の中で観察がありますので、委員長のご説明にもありましたが、教科書のサイズは低学年の場合には配慮しなければならないのではないかと思います。
  - 出張委員長 お手元に7社の教科書を用意しています。7社のうち5社が26cm×21cmで、これが一番小さいサイズです。学校図書が少し大きくなり、28.5cm×21cm。一番大きいのが東京書籍の30cm×21cmで、小学生の低学年で使うには持つのに不便できないかと感じました。しかし、低学年の教科として写真やイラストが多く、目で見て分かりやすくできていました。インパクトのある写真を載せるために教科書のサイズを大きくしていると思いますが、児童が教科書を持って移動したり、活動したりすることもありますので、委員がご指摘されたとおりのサイズというのも一つの観点ではないかと思います。
  - 尾関教育委員 全教科ともサイズだけで判断するつもりではありませんが、生活科の場合は低学年が使用しますから、やはりサイズは重要だと思います。
  - 園田教育長 そのほかいかがですか。
  - 宮下教育委員 子どもにとっての教科書はもちろん内容の素晴らしさもありますが、表紙や裏表紙も大きな刺激材料になるのではないかと思います。報告の中ではそれらについては触れられていませんでしたが、低学年の意欲や関心を高めるためには表紙のデザインも大切かと思われまます。デザイン等について工夫はありましたか。
  - 出張委員長 表紙も重要な観点だと思います。各社とも写真やイラストなどを使って、楽しいと思わせる工夫がされていると思います。特に、啓林館は裏表紙に「自分のマークをかこう」というところがあり、工夫していました。また、大日本図書は表裏両面とも絵の部分に凹凸を付けており、見た目も興味を引いて、触った感触もいいような形の工夫をしています。低学年ですので、最初の導入という形で各社いろいろ工夫しているところが読み取れました。
  - 宮下教育委員 関連して伺います。実は私も調査・分析の段階で大日本図書の教科書を持った時に、「あれっ」と感じたのです。普通のとは全く違う感触があったからです。何かと思ったら、ここに凹凸があるのです。凹凸をこういうふうに触っていくことで何かが見えてくるのではなからうかと思いました。点字の凹凸とまではいきませんが、そのような感触があります。子どもたちの興味や関心をそそるものだと感じました。
- もう一つ感じたことがあります。凹凸もそうですが、（教科書を掲げて）これです。白い○があります。○があったら覗きたくなりますよね（笑声）。壁に穴があいていたら、覗きたくなるという子どもの心理をここで沸き立たせると思います。心理学にあります、ガリ

ギュラ効果です。それをねらっていると思います。見てはいけないものは、見たくなるのが人間です。となると、「では後ろを見てみよう」と、さらに子どもたちの心理を高めるような、これは心憎いばかりのものだ、そんなことを強く感じました。

○園田教育長 透明のイラストみたいなものが付いていますね。

○宮下教育委員 そのバージョンはこれまでも使われていましたが、これは初めてですね。

○園田教育長 そのほか、いかがですか。よろしければ採択に入ります。

○佐川教育総務課長 投票用紙をお配りします。投票箱は空になっています。

(投票用紙配付) (投票・開票)

結果を申し上げます。大日本図書5票です。

○園田教育長 「生活」は大日本図書となりました。

ここで、昼の休憩を60分程度とらせていただきます。12時45分に再開します。

(休憩 午前11時45分)

(再開 午後0時45分)

休憩を閉じて再開します。次に「音楽」の説明をお願いします。

○出張委員長 それでは「音楽」の説明に入ります。

先ず【教育出版】です。発達段階に応じた内容の押さえ方や分量になっており、題材の系統性は適切であるとししました。楽譜が見やすい紙面の色合いになっており、新しく学習する共通事項をページ右脇へ表記することになっており、歌唱と関連付けて「音楽を形づくっている要素」、例えば(「音楽のもの」と示されている)を学べたり、歌唱と関連付けた鑑賞教材があるという工夫がされていたからです。しかし、本来は児童自身に気づいてもらいたいことまでが書かれてしまっているなど、主体的な学びを妨げる部分もありました。

続いて【教育芸術社】です。児童にとって魅力的な楽曲が多いなど、題材が豊富で系統性が適切であり、題材の関連が分かる色分けや新しく学習する共通事項が枠で囲まれていることなどの工夫もありました。しかし、全体的に内容の専門性が高く、題材に関わる写真や学習についての説明など情報量が多いため、指導のしにくさや児童の理解の難しさにつながる可能性も考えられます。

選定調査委員会では、総合的には「教育出版」が使用に適切なのではないかという方向で話が進んだところです。説明は以上です。

○園田教育長 ありがとうございます。ご意見、ご質問はいかがでしょうか。

○宮下教育委員 音楽科で育む知識及び技能、思考力・判断力・表現力、それから学びに向かう人間性の三つをいかにして育てるか。それをデザインするかは、新しい音楽の教科書の必然的な事項であろうと考えます。さらに、新しい学習指導要領に加えられた、生活や社会の中の音と音楽と豊かに関わることを加味した構成にするためには、今まで以上に教材の量や質、難易度の検討が必要かと思います。また、指導者の技術や経験、専門性によっても難易度は変化してくるものだと考えています。最近の傾向ですが、教職に採用される若い先生方の中には今まで培われてきた音楽性を基に、音楽を楽しむ教師集団が増えていることも現状にはあります。培われてきた音楽教科指導の成果だと私は強く感じています。そのような現状から分析して、教材の量や質、難易度等について2社を通して感じられたことがありましたら伺います。

○出張委員長 先ほども触れましたが、教育出版よりも教育芸術社の方が歌唱教材や器楽教材が多く載っており、選んで使うことができるようになっています。ただし、専門性が高く情報量が多いことから、児童の理解や指導の重点の置き方について指導者側の裁量による部分



が大きくなることが考えられます。

○宮下教育委員 関連して伺います。私は、教育委員に任命されて以来、周年行事や卒業式に参列し、子どもたちの合唱や演奏を聴く機会が多くなりました。素晴らしいハーモニーや演奏力で曲想を理解していることに、いつも感動してきています。これも先生方の指導のおかげだと感じています。この子どもたちにもっと異なるジャンルの曲や器楽演奏のチャンスを与えることができたならば、さらに豊かな音楽性を発揮する子どもたちになるのではないかと強く期待しているところです。

○園田教育長 そのほかいかがですか。

○尾関教育委員 低学年では専科の先生ではなく担任が指導することも多いと思いますが、低学年から音楽に馴染ませて、将来も趣味として関わられるような音楽の機会を与える方が重要だと思っています。低学年で指導する、専門性が高くない教員にとっての使いやすさはどうなのでしょう。

○出張委員長 教育芸術社では、低学年の拍子に対する内容が複雑なところがあります。一方、教育出版では低学年の場合に音楽を体で表現することを導入していますので、身体表現から音楽表現につなげていくような工夫がされています。小学校は音楽を専門としていない全科の担任ですので、扱いやすい教材になっているのではないかと思います。

○園田教育長 そのほかいかがですか。

○宮下教育委員 オリンピック・パラリンピックを来年に控え、多様な国々との交流が盛んになってきます。国歌への意識を高めるとともに国際性を養うため、君が代の扱いはどのようになっていますか。

○出張委員長 一般的な傾向ですが、教育出版社は全学年で君が代を取り上げています。国歌については国歌の尊重、歌詞の大意、細石の解説なども掲載しています。教育芸術社も全学年で君が代を取り上げています。国歌についてはオリンピックにおける国歌に関する解説、歌詞の大意、国歌の尊重、国歌を歌ったり聞いたりするときのマナー、2012年ロンドンオリンピックの写真などさまざまなものを取り入れて、写真など掲載しています。

○宮下教育委員 ありがとうございます。オリンピック・パラリンピックが開催されますと、日本の国歌や国旗をはじめ、子どもたちはさまざまな国の国歌や国旗を見聞きするようになります。今回の教育課程の改訂の特色の中に、「カリキュラムマネジメント」という文言があります。他教科との関連において意図的、計画的な指導が求められているのです。国歌の、（教科書を広げて）どれも2社とも2ページ構成です。この2ページにおいて改訂の背景が理解できるとともに、笑顔の素晴らしい日本選手団が紹介されています。教育芸術社では、ここにそれぞれのスポーツ大会で優勝した時の映像が載っています。

カリキュラムマネジメントというのは、こういう音楽の授業の中での君が代の指導においても他教科との連携を深め、子どもたちに理解をさせたいこうと、意図的・計画的に進めていくことにあります。どの教科でも同じことが言えると思います。この機会を通して国際性を養うためにも指導の充実をしていかなければならないと強く感じているところです。

○園田教育長 よろしければ採択に入ります。

○佐川教育総務課長 投票用紙をお配りします。投票箱は空になっています。

(投票用紙配付) (投票・開票)

結果を申し上げます。教育出版2票、教育芸術社3票。

○園田教育長 「音楽」は教育芸術社となりました。次に「図画工作」の説明をお願いします。

○出張委員長 資料をご覧ください。「図画工作」です。

まずは【開隆堂】です。写真が大きくカラー印刷の発色もよいので、児童の視覚にうったえられるものだと思いますが、細かな解説や活動の流れがやや少ないので、補足的に説明しながら進めていく必要があると感じられました。説明が少なく、活動から入るスタイルの指導に適している教科書です。指導のきっかけや発展性のある題材が多く取り上げられていて、用具や材料が分かりやすくはっきり図で示されているので、学級担任が指導しやすいと考えました。系統的な学習に関する教科名が題材ごとに記されていますが、少し情報量が多いように感じられます。彫刻刀の彫り方や持ち方においては彫りの断面図があり、とても分かりやすいものになっていました。断面図はQRコードを使ってみるができるようになっていました。

続いて【日本文教出版】です。「日本文教出版」は紙面が児童の活動の流れに即しているので、活動の指示が出しやすいようになっています。また、使用する道具や用具の掲載が見やすく、丁寧な扱いがなされています。掲載している児童の作品の完成度が高いため、児童の活動意欲の高まりが期待できるようになっていて、作品制作の手だてや工夫もよく分かり、表現のヒントとなっています。彫刻刀の刷りの手順が分かりやすく、製作のプロセスが図や写真でよく分かるようになっていました。児童が活動で感じたことや考えたことを吹き出しで表現したり、作品の解説文が描かれていたり、児童が学習を進める上で参考になる事項が数多く示されていました。

選定委員会では総合的に見ますと、「日本文教出版」が使用に適切ではないかという方向性で話が進んだところです。説明は以上です。

○園田教育長 ご意見、ご質問はいかがですか。

○馬場教育委員 いずれの教科書も図工が好きになりそうだという印象を受けました。作れない子でも教科書を見たりすることで楽しめたり鑑賞することができるので、そういうことも大事だと思いました。図画工作ではタブレットやデジタルカメラなどのICT機器の活用が有効になります。今では自分が美術館の中に入って鑑賞しているようなアプリもあって、こうした機器類をどのように活用しているのか伺います。

○出張委員長 開隆堂では5、6年生の上巻で「マイキャラが動き出す」という題材があり、製作した作品をデジタルカメラで撮って、動き出す画像を作り出す活動などが取り上げられています。一方、日本文教出版も同じ5、6年生で、「形が動く、絵が動く」という題材で、アニメーション作りとして写真や映像を活用したものが取り上げられています。いずれの教科書でも作品を静止画として見せるだけではなく、このように動画も活用した内容を取り入れているところがありました。

○馬場教育委員 ありがとうございます。やはり、時代がきちんと反映されていて、すごいと思いました。子どもたちの美的感覚や色彩感覚の豊かさというものは、大人が考えている想像をはるかに超える可能性がたくさんあると思います。多くの子どもたちは、最初は「創造する」と言っても、まずは「真似する」ことから入るのだと思います。作ってみたいものを真似るところから作品づくりを始め、そこからまた段階を経て自分の創作意欲を刺激されて、自分の中で作り出されたものが初めて「創造する」という形になるのだと思います。簡単な作品だけではなくレベルの高い作品に触れて、難しいというより、「あっこんなこともできるんだ」という思いや、創作の気持ちを高めていくにはとてもいいと思います。また、以前はなかった動画ですとか、盆栽が載っていたりして、そういう時代の流れをいずれの教科書も汲んでいてすごいと思いました。クオリティが高いのはとてもいいと思いますので、掲載されている作品のクオリティが高過ぎるということは、子どもたちにとっては、心配しなく

ていいと思います。

○園田教育長 そのほかいかがでしょうか。

○宮下教育委員 改訂のねらいの一つである、生活や社会の中で形や色などに関して豊かに関わる資質や能力の育成ということが注目されています。どのように各社は取り上げていたのか伺います。

○出張委員長 例を挙げますと、開隆堂の場合は「つながる造形」ということで、造形や芸術が地域や社会につながっていく内容が紹介されていました。また、日本文教出版では「ドリームプロジェクト」の題材で、環境や安全、社会の問題などにつなげていけるように取り上げているという工夫をしていました。

○宮下教育委員 分かりました。ありがとうございました。

○園田教育長 ほかにいかがでしょうか。よろしければ、採択に入ります。

○佐川教育総務課長 投票用紙をお配りします。投票箱は空になっています。

(投票用紙配付) (投票・開票)

結果を申し上げます。開隆堂出版1票、日本文教出版4票。

○園田教育長 以上で、「図画工作」は日本文教出版に決まりました。引き続き「家庭科」の説明をお願いします。

○出張委員長 資料をご覧ください。「家庭科」です。

まずは【東京書籍】です。「内容の押さえ方」については教材や資料が正確であり、分かりやすくなっています。写真やイラスト、図、操作方法などが順序よく整理されており、児童がイメージしやすい工夫がありました。子どもの「主体的・対話的で深い学び」にも対応できるような工夫がされていました。「構成・分量」については、発達段階に応じた分量が適切ではないとしました。非常に分量が多く、特に各単元の「深めよう」の扱いは難しく、指導がしづらいと考えたからです。「表現」については理解のしやすさはほぼ適切だということですが、写真が多くあり、カラーはユニバーサルデザイン使用でききれいなのですが、文字が多過ぎるページがありました。また、教材の特性に即した表現の配慮はされており、「話し合おう」「考えよう」のところが、考えるヒントが児童の言葉で書かれており、主体的・対話的な学びが可能になるのではないかと考えています。「使用上の便宜」の「見やすく、つき合いやすいか」についてはほぼ適切であると思います。しかし、A4版で大きく見やすくなっていたのですが、文字が多過ぎるページがあるのが難点です。

続いて【開隆堂出版】です。「内容の押さえ方」については、発達段階に対する配慮がもう少し必要であるとししました。情報量が多く、文字や写真が小さく、大切なところが分かりにくいところがあったからです。ただし、プログラミングについては、日常の家事の中にあることに触れているのはいいと思います。教材の資料は適切でした。文章による説明に即したイラストや写真があるので非常に分かりやすくなっていました。「構成・分量」については単元の構成は適切であるとししました。「見つける・気づく」「わかる・できる」「生かす・深める」という3段階で学習が進められるように構成されていたからです。「表現」については教科の特性に即した表現が適切で、家庭生活に対する体験的、実践的な考え方を持たせるような表現になっていました。「使用上の便宜」ですが、学習活動が進めやすいような便宜が図られて、非常によいと思いました。めあてや振り返りのコーナーがあり、目標を持ちやすいようになっていたからです。また、QRコードで見ることができ動画が随所にあり、個々の興味に応じて深い学びにつながるができると考えられます。

以上、選定調査委員会では、総合的には開隆堂が使用に適切ではないかという方向で話が

進みました。

- 園田教育長 ありがとうございます。ご意見、ご質問はいかがでしょうか。
- 細田教育委員 私たちの世代では男性は家庭科の授業を受けていませんでしたが、今は、男女の区別なく学ぶ時代になっています。日常生活での体験や実践につながるような学習だと理解がしやすいと思います。体験的あるいは実践的に家庭科の学習を効果的に進めるための工夫は何かされていきましたか。
- 出張委員長 開隆堂も東京書籍も写真を多数掲載しており、映像で見るという工夫がありました。どちらの教科書も学習が家庭生活に結び付く内容になっており、自主的に活動できるヒントの掲載がなされていきました。ご家庭と連携できる課題が掲載されるなど、日常生活に結び付ける工夫が随所に見られました。特に開隆堂は体験を通して学ぶことができるよう、必要な手だての掲載が分かりやすくなっていました。
- 細田教育委員 手だてがはっきりと書いてあると子どもたちも自分で行動しやすいし、どちらの教科書もよい工夫がされていていいですね。
- 園田教育長 そのほかいかがですか。
- 馬場教育委員 「家庭科」も「生活科」と一緒に、それが生活に役立つというか、保護者としてはそれを家で活用してもらえるように望んでいます。家庭でご飯を作ってくれたり、お手伝いをもっとしてくれたらと思います。子どもたちが家庭科に興味や関心をさらに持てて、家庭にもつながるような工夫があるといいと思いますが、実際、教科書の中ではどのような工夫がありますか。
- 出張委員長 開隆堂については、問題解決型の単元目標が掲示されており、ICTを使用して自主的に学習できるようなQRコードがあり調理の仕方や実験なども出ており、映像で見られるような工夫がされていきました。東京書籍では、専門家の話が豊富に掲載されていました。開隆堂では日本の伝統に関する話を掲載するという工夫がありました。
- 馬場教育委員 子どもたちがQRコードなどを使うのはいいと思います。「みずから学び、知を創造する人間」と本市の教育目標にも人間像が掲げられています。保護者としてはQRコードを読み取ってタブレットやスマホで見られるのは子どもたちの自らの学びにつながると思いますが、家庭だと、すぐにそこからユーチューブやラインなどにつなげてしまうのが心配です。「家庭科」だけではなく他の教科でもQRコードがたくさん載っていて、家庭学習に導けるいい動線ができているのと同時に、保護者としてはそれがきっかけで、スマホやタブレットを使うことにつながってしまうのではという懸念があります。

なお、開隆堂では日本の伝統を歓迎する話が載っており、子どもたちが自ら学ぶことを導いてくれるのは親として安心です。

- 園田教育長 そのほかいかがですか。では、採択に入ります。
- 佐川教育総務課長 投票用紙をお配りします。投票箱は空になっています。  
(投票用紙配付) (投票・開票)

結果を申し上げます。開隆堂出版5票です。

- 園田教育長 「家庭科」は開隆堂出版となりました。続きまして、「体育」の説明をお願いします。
- 出張委員長 「体育」に入ります。資料をご覧ください。

まずは【東京書籍】です。「内容の押さえ方」については、教材の資料は見やすく、分かりやすくなっています。写真や挿絵が多過ぎずに、比較的分かりやすく配置されていました。「構成・分量」では、発達段階に応じた分量は適切であるとしました。資料の量は多過ぎず、

要点が分かりやすいからです。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすい」かについては十分であるとしました。文字の大きさや資料の量等、分かりやすく作られていたからです。

続いて【大日本図書】です。「内容の押さえ方」について、発達段階に対する配慮は十分であるとしました。写真や挿絵の量が多過ぎず、文字の大きさが読みやすいからです。ただし、教材や資料は少し工夫が必要であると考えています。挿絵に比べて写真点数が少なかったからです。「構成・分量」については、発達段階に応じた分量はもう少し配慮が必要であるとしました。自分で考えて記入したり、まとめたりするページが少ないからです。「表現」では、教材の特殊性に即したところは適切であるとしました。学校で身近な養護教諭や親の言葉が吹き出しで表現されており、児童の自分の問題として受けとめやすいからです。

「使用上の便宜」の「全体の構成が見通せるように配置しているか」については十分であるとしました。学習段階の流れが視覚的にも分かりやすくなっていたからです。

続いて【文教社】です。「内容の押さえ方」について、発達段階に対する配慮は十分であるとしました。写真や挿絵の量が多過ぎず、文字の大きさも読みやすかったからです。「構成・分量」について、発達段階に応じた分量はもう少し配慮が必要であるとしました。自分で考えて記入したり、まとめたりするページが少なかったからです。「表現」については、一貫性を持った記述はやや工夫が必要であるとしました。学習の流れを示す緑色のマークがどの学習でも全て同じであるため、目立たず、分かりにくいからです。「使用上の便宜」については、学習活動が進めやすいような工夫がありました。学習段階の順序が示されていてよかったと思います。見やすい、使いやすさは十分でした。写真は少ないですが資料の量や文字の大きさなど、分かりやすくつくられていました。

続いて【光文書院】です。「内容の押さえ方」については、発達段階に対する配慮がやや不十分であるとしました。挿絵の量が多く、気が散りやすいと思われる、また、文字が小さく、見づらい部分があったからです。「構成・分量」の「発達段階に応じた分量」については、やや多いとしました。資料等の情報量が多く、要点を捉えづらいからです。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」については少し配慮が必要であるとしました。資料や挿絵が非常に多いので、児童の気が散ってしまうおそれがあるからです。

続いて【学研】です。「内容の押さえ方」については、発達段階に対する配慮はもう少し必要であるとしました。写真や挿絵の量は適量ですが、説明文の文字の大きさがA4版にしては小さくなっているところがあったからです。また、興味や関心を引き出す内容に、もう少し工夫が必要であると感じました。導入のインパクトが弱いと感じています。「表現」については、教科の特質に即した表現は適切であるとしました。養護教諭や友だち、親の言葉が吹き出しに表現されており、児童も身近に受けとめやすい内容であるからです。「使用上の便宜」の「全体の構成が見通せるよう配慮」についてはやや必要であるとしました。説明部分の文字が小さく、若干見にくいところがあるからです。

以上が「体育」です。このほか教科書採択に当たり、特に「保健」については教科書に付随しているワークシートや評価用テストの使用感も非常に重要であるため、それらの検討も必要であると感じた、との意見が出されていました。

選定調査委員会では、総合的には東京書籍が使用に適切なのではないかという方向で話が進んだところでです。説明は以上です。

○園田教育長 ご質問、ご意見、いかがでしょうか。

○細田教育委員 児童に内容を理解させるために重要な視点を伺います。

○出張委員長 体の中のことも扱うので、適度な量の分かりやすい写真資料、図、イラストな

どについての話が出ました。情報量が多過ぎると授業中に児童の気が散ってしまう面もあるので、そこは課題になるかな、という話題がありました。適当な量が必要で、多過ぎては気が散ってしまうのではないかとということです。

- 細田教育委員 もう1点伺います。保健の学習では男女の性差なども話題に取り上げる場面が出てくると思います。性的少数者については社会でも話題になっていますが、教科書の中で取り上げられていましたか。
- 出張委員長 各社とも、性の悩みについては相談することの大切さについて触れていました。ご指摘の性的少数者のことについて直接的に触れているのは、文教社と光文書院の2社です。扱う学年は異なっており、性の悩みといった取り扱いですが、その内容についてはとても発展的に扱われていることを読み取れました。
- 細田教育委員 ありがとうございます。悩んでいる子どもにとってはとても繊細に取り扱わなければならない問題だと思います。教科書の中で直接的に触れるべきかどうか、慎重に考えたいと思います。
- 園田教育長 そのほかいかがでしょうか。
- 尾関教育委員 これから厳しくなりつつありますが、喫煙の害についても児童に分かりやすく教えることが必要だと思います。そういう配慮はありましたか。
- 出張委員長 たばこは話題になっており、以前は6年生の「病気の予防」の中で喫煙でかかりやすくなる病気として「肺がん」について扱っていました。今回は「がん」として記載されています。また、発展的にページ数を増やし、「がん予防」についての内容を扱う出版社がありました。学校によりますが、「病気の予防」の学習は養護教諭が行うことがあります。特に「体の発育・発達」の単元では、担任と養護教諭が連携して授業を行うことも多いです。また、喫煙の害に関しては「禁煙キャラバン」等、外部団体等の協力をお願いする場合があります。こうした取り組みについては学校公開など実施される事例も多いと聞いていますので、そうしたところから家庭との連携が可能になってくるのではないかと思います。
- 尾関教育委員 家庭との連携が一番大事だと思いますので、そういう観点から教科書も選んでいきたいと思います。
- 園田教育長 ほかによろしいでしょうか。それでは、採択に入ります。
- 佐川教育総務課長 投票用紙をお配りします。投票箱は空になっています。  
(投票用紙配付) (投票・開票)

結果を申し上げます。東京書籍5票です。

- 園田教育長 「体育」は東京書籍となりました。次に、「外国語」の説明をお願いします。
- 出張委員長 「外国語」を説明します。資料をご覧ください。

先ず【東京書籍】です。「内容の押さえ方」については、教材資料は正確であるとししました。なお、資料は分かりやすいのですが、イラスト、図、センテンス等の情報がとても多いので、そこが指摘されています。系統性は妥当ですが、知識量や表現力が要求されるため、本市の児童に対する難易度としては高いと感じました。「表現」についてですが、理解のしやすさは十分ではなししました。見開きページの中に情報が多く入っており、児童の注視が逸れる心配があるからです。「使用上の便宜」の「見やすく、使いやすいか」については十分ではなししました。掲載内容から担任が取捨選択する必要があるためです。

次に【開隆堂】です。「構成・分量」については、単元構成は適切であるとししました。初めに聞く活動が設定されており、実際に使う場面を想定したアクティブで行う流れとなっています。発達段階に応じた分量はやや不適切であると考えます。単元として「聞く・書く・

読む」を指導することが可能ですが、そこに書いてある等の活動が細かく設定されており、全てを限られた時間内で行うのは非常に難しいのではないかと思います。「表現」については、一貫性を持った記述がなされています。紙面全体の構成やデザイン、イラスト及び記号などの配色や色、大きさに統一感があり、カラーユニバーサルデザインに配慮し、教材の特性に即した表現に配慮されていました。巻末付録として単語リストや絵カード、アルファベット表やローマ字表等が付録されており、文字に親しみやすいように工夫されていました。しかし、中学校での英語科の学習を意識した内容構成となっていますが、盛り込み過ぎている状況が見られました。

次に【学校図書】です。単元構成は適切であるとしました。1 単位時間を 15 分ごとに区切ることで段階的に取り組み、児童が自然な流れで発話できるような配慮がされていたからです。発達段階に応じた分量も適切であるとしました。聞くことを重視した構成となっているため、聞く活動が 1 単位時間の中の 3 分の 1 から 3 分の 2 程度を占める内容になっていたからです。「表現」については、一貫性を持った記述がなされています。紙面全体の構成やデザイン、イラストはアニメタッチのものが多くありますが、記号、配色、大きさに統一感があり、工夫がされていました。「使用上の便宜」の「見やすさ、使いやすさ」についてはやや不適切なところがあるとしました。随所にマンガのような挿絵が示されており、その絵が児童の活動の集中を途切らせてしまうおそれがあると考えたからです。

次は【三省堂】です。「内容の押さえ方」ですが、発達段階に対する配慮が不十分であると感じました。入門期において「聞く・話す」がまだ十分にできない児童にとっては、内容が非常に高度であると感じたからです。「構成・分量」については単元の構成はいいのですが、やや難しいと感じました。HOP-STEP-JUMP の 3 段階で学習したことを自分なりに表現できるようにするという構成ですが、JUMP で自分なりに学習したことから表現を考える段階で時間がかかることが予測され、そこが難しいのではないかと思います。4 観点のうち「話す」を重視した構成となっており、難易度は高いと思います。なお、クラスルームイングリッシュや学習のまとめのページは充実していることが感じられました。

次は【教育出版】です。発達段階に対する配慮は適切であるとしました。現在使用している「We Can」と比較して若干語彙（ごい）が増えている程度の分量なので、本市の児童の実態に合っていると感じました。教材の資料も分かりやすく、イラストも統一されており、児童がイメージしやすいのではないかと思います。「書く」活動については他のワーク等による補足的な活動が必要であると考えています。

続いて【光村図書】です。「内容の押さえ方」については、発達段階に対する配慮は十分であるとしました。映像や音声によって英語に慣れ、親しみ、日本と世界の文化の違いや共通点に気づいて、単元の終わりには英語で伝え合うことの楽しさを実感するよう編集されていたからです。「構成・分量」については単元の構成は適切であるとしました。単元も

「Hop!」「Step 1」「Step2」「Jump!」という分かりやすい流れをつくっていたからです。総合所見ですが、Here We Go!のところで映像や音声を中心とした、聞くことを 1 単位時間の初めに設定するなどの体験的な活動を工夫しているところが見られました。

次に【啓林館】です。「内容の押さえ方」のところでは、発達段階に対する配慮が十分であるとしました。入門期における英語教材として情報量、内容とも適切でした。興味や関心を引き出す内容も適切で、絵が中心の紙面構成となっており、見やすく、分かりやすくなっていました。「構成・分量」については単元の構成も適切で、「話す」「聞く」「読む」「書く」の 4 観点についてスモールステップで、無理なく構成されていました。「使用上の

便宜」については学習活動を進めやすいような便宜が図られており、QRコードの参考情報があり、教師だけでなく、誰でも参考情報にアクセスすることができるようになっていました。「見やすい、使いやすいか」については適切で、児童用のピクチャーカードも切り離しの点線が付いており手で容易に切ることができて、使いやすく作られていました。

以上、選定調査委員会では、総合的には啓林館または光村図書が使用に適切ではないかという方向で話し合いが終わったところです。説明は以上です。

○園田教育長 ありがとうございます。調査委員会では啓林館と光村図書の複数社という結論になったということです。それぞれの特色といいますか、両方を推薦する声の特徴的なことについて伺います。

○出張委員長 啓林館は内容がシンプルで分かりやすいという点で、初めて英語を学ぶ子どもたちにとっては入口として良いのではないかという意見がありました。光村図書はこれまで東久留米市の各小学校で外国語活動を段階的に充実させてきた経緯に沿いつつも、授業の流れが分かりやすいという点で、より望ましい教科書ではないかという意見が出されています。

○園田教育長 ご質問、ご意見はいかがですか。

○馬場教育委員 いずれの教科書にも既に文章があり、小学生のレベルも高いのだと驚きました。東久留米ではこれまでも英語教育に力を入れてきたので大丈夫だと聞いていますが、報告書の中にも「情報が多過ぎないか」との意見がありました。具体的にはどういったことですか。

○出張委員長 例えば、見開きのページにさまざまなコーナーや写真が散りばめられており、どこに注目したらいいのか、子どもが迷ってしまう構成になっているところがありました。英語に慣れていない児童にとっては、かえって混乱してしまう可能性があるという意味です。

○馬場教育委員 見て楽しいということも大事ですが、小学校で英語が苦手になり、学習が嫌だと思ってしまうと、中学校や高校で引きずってしまいそうな気がします。中学校との関連を考えつつ、盛り込み過ぎない、でもしっかりやるというのが大事なので、中学校につながる準備として適切なものと考えて選ぶ必要があると思いました。

○園田教育長 そのほかいかがでしょうか。

○宮下教育委員 英語教育は、音声に十分に慣れ親しませることがとても重要だと考えています。また、文字には名称と韻があることに気づかせるためにチャンツがあります。一定のリズム感をもって、言わば歌のような形で指導していることが多いようです。今回の教科書でも活用されているようですが、調査した結果等があればどの程度各教科書に入っているのか伺います。

○出張委員長 チャンツ・歌の数でお答えしますと、東京書籍が42、開隆堂が58、学校図書が72、三省堂が29、教育出版が25、光村図書が49、啓林館が71です。

○宮下教育委員 ありがとうございます。このチャンツについては都の教育委員会でも今のような報告がなされているのだと思います。チャンツはとても重要な英語教授法の一つです。リズムに合わせて英単語やセンテンスを繰り返して、英語独特のイントネーションや塊を体験し、音声指導を確かなものにしていく手法です。自分の中学生、高校生時代を振り返りますと、そのような指導法に出会うことはほとんどありませんでした。ですから、私はいまだにリスニングが弱いので反省しているところです。もちろん当時の指導法が悪いのではなく、自分の力不足であることは分かっているのですが…。しかし、音声指導に重点が置かれ過ぎると、小学校で音声中心に学んだことが中学校の段階で音声から文字への円滑な接続に支障があることも課題として出てきているのではないかと考えます。そのためには、音声だけで



はなく、4つの観点等についてもきちんとバランスよく考えて、総合的な教科書が必要なのではないかとこのことを私は先ほどのご説明を聞きながら感じました。

今回は2社がいいということです。どちらか選ばなければならないのですが、先ほどご説明をいただきながら、ああそうか、そうならば、チャンツはもちろん大切な指導法だがそこにもう一つ、バランスを考えた四つの機能も含めた教科書の選定ということ、この中で私たちは見抜いていかなければいけないと感じています。

○園田教育長 そのほか、いかがですか。

○尾関教育委員 光村図書の場合ですが、具体的にはどういう点が教員にとって使いやすいのですか。また、それによって延長線上にどういう形で学力向上というか、英語力向上に資するようになってくるのか伺います。

○出張委員長 学力向上に資するものという観点から、お答えさせていただきます。タブレット端末を活用して「聞く」ことを重視した内容、例えば、ユニットの始めにネイティブの発音を聞き、1単位時間の始めにそれを聞いたりする活動があるのは、東久留米市のこれまでの研究と合致していると思います。新学習指導要領でも「使える英語」の習得を目指して、「話す」「聞く」活動を重視していますので、そうした点に力を入れている教科書が望ましいと思っています。

○尾関教育委員 分かりました。

○園田教育長 「話す」「聞く」ことを重視している教科書という点では、調査委員会としてはどのような出版社を推す声があったのですか。

○出張委員長 どの教科書も各領域にバランスよく学習活動を置いています。雑談の中ではありますが「聞く」については三省堂、学校図書が話題に出ていました。「話す」「書く」の双方では光村図書がいいのではないかとこの話が出ていました。

○園田教育長 よろしければ採択に入ります。

○佐川教育総務課長 投票用紙をお配りします。投票箱は空になっています。

(投票用紙配付) (投票・開票)

結果を申し上げます。光村図書3票、啓林館2票です。

○園田教育長 「外国語」は光村図書になりました。引き続き「道徳」の説明をお願いします。

○出張委員長 「道徳」に移ります。

先ず【東京書籍】です。所見のところを見ていただきたいと思います。「考え、議論する道徳」を実践しやすい教科書になっています。教材で何について学ぶのかが明確に示されており、また、主体的に考え、対話を通して深い学びへつなげるための問題解決的な学習に対応した教材が第3学年以上に設定されています。いじめ問題対応教材を全学年に掲載しています。現代的な課題に関する教材を掲載する一方、定番の読み物教材も多数掲載されました。学習の流れや付録など児童の発達段階に応じた工夫が見られ、児童が安心して授業を進めることができると考えられます。

続いて【学校図書】です。「学校図書」もまとめてありますのでご覧ください。教材は文のみの掲載となっているため、児童が主体的に考え、問題解決的な学習展開が期待できるのではないかと思います。教材で「気づき」と書き込みができる「まなび」の2冊構成となっており、「まなび」には発問が記載され、学習の流れがつかめるようになっています。しかし、内容項目ごとに主体的・協同的な学習活動が取り入れられているため、読み物教材の価値を深めさらに学習活動となると、授業の時間配分が難しいのではないかとこのことです。1単位の授業時間の展開をどのようにするか工夫が求められる内容になっています。

次に【教育出版】です。「教育出版」も、各教材において「価値」に関する発問があるので、授業ごとの内容項目を明確に押さえることができると考えます。また、自己の振り返りや実生活における道徳的場面を想定した発問、「やってみよう」等、体験活動を取り入れた授業構成ができる工夫になっていました。他教科・領域の関連を意識して構成されており、巻末の表にも書かれていました。また、特に4年生から歴史上の偉人や著名人の教材を多く扱っています。

次は【光村図書】です。「光村図書」は年間を通した構成が意識されており、見直しをもって進めていくことができるものでした。各教材において導入から終末までの発問や発展について載せられているので、授業の展開も把握しやすいようになっています。文章表現が学年に応じて工夫されており、また、特別な支援が必要な児童への配慮も見られる内容になっていました。いじめや情報教育についても考えられるよう発達段階に応じた内容で構成されています。全体的にページに情報量が多く、教材の「読み取り」が重要になるのではないかと思います。語彙（ごい）を増やしたり、分かりやすく補足したり、国語に関連した活動が多くなる教科書であると考えています。

次は【日本文教出版】です。教材は児童が主体的に考え、問題解決的な学習展開が期待できるものになっていました。教材である「読み物」が写真やイラストで、学習に集中できるようになっています。内容項目ごとに主体的・協同的な学習活動が取り入れられているため、読み物教材の価値を深め、さらに学習活動をするとなると、授業の時間配分が難しくなるのではないかと考えられます。1単位の授業時間の展開をどのようにしていくか、教員の工夫が必要になるのではないかと思います。巻末に教材と主題名が明記され年間に何を学習するか一目瞭然と把握できるようになっていて、分かりやすいものになっていました。

続いて【光文書院】です。さまざまなマークが活用され、本文の欄外に内容のポイントや問いかけが載せられていました。また、漫画のキャラクターからの問いかけや実生活への促し等さまざまな支援がされており、児童が読むときにどこを考えればよいのかが分かりやすく、流れもつかみやすいものになっています。ただし、流れが決まっているので、展開や活動の仕方に教員の工夫が必要になってくると思います。児童が学習後の振り返りをできるように、巻末に自己評価シートが付いていました。本文中の書き込み欄がほとんどなくノートの作成を促す文言があり、別冊に作ることを前提とした構成になっていました。

次は【学研】です。教材は児童が主体的に考え、問題解決的な学習展開が期待できるものでした。教材の「読み物」には写真やイラストがあり、学習に集中できるようになっています。内容項目ごとに主体的・協同的な学習活動が取り入れられているため、読み物教材の価値を深め、さらに学習活動をするとなると教材の時間配分が難しくなり、1単位の授業時間の展開をどのようにするか、教員の工夫が必要であると考えます。

続いて【廣済堂あかつき】です。学習の流れ「道徳の時間はこんな時間」を巻頭に置き、道徳の時間の展開について説明することで、児童が理解を深められるように工夫されていました。しかし、道徳ノートの枠組みにより、児童の自由な発想や考察が妨げられないような配慮も必要なのではないかと感じますし、ノートの単元の順番と教科書の単元の順番が違っているため使いにくいと考えます。ノートのしおりには保護者のチェック欄があり、家庭との連携を図るのに役立つこともできるようになっていました。ただし、AB版で頑丈なつくりですが、他教科の教科書と大きさが違うので取り扱いにくいのではないかと感じました。

選定委員会では、総合的には光村図書が使用に適切ではないかということで方向性として話が進みました。

- 園田教育長 ありがとうございます。ご質問、ご意見はいかがでしょうか。
- 馬場教育委員 選定調査委員会の報告書と市民の声なども見ながら考えました。市民の声をみると、平和教材を大切にしたいという意見がとても多かったです。もちろん、私も平和な社会を築き、継続するという視点はとても大切だと思いますので共感しました。教材で直接的に戦争と平和という形で描くだけでなく、根幹的な人と人との関わりを通していくことが本当の平和的な解決につながるのだと思います。心の持ちようであったり、日常的に心の穏やかさを持つ大切さということを含め、集団や社会との関わりを丁寧に考えさせていきたいと思っています。そのような内容がどの程度含まれているのか伺います。
- 出張委員長 先ず1点目の「主として人との関わりに関すること」についてです。東京書籍が48、学校図書が46、教育出版が45、光村図書が52、日本文教出版が52、光文書院が59、学研みらいが52、廣済堂あかつきが50でした。もう1点の「主として集団や社会とのかかわりに関すること」については東京書籍が65、学校図書が69、教育出版が69、光村図書が69、日本文教出版が78、光文書院が79、学研みらいが58、廣済堂あかつきが63でした。
- 馬場教育委員 ありがとうございます。結構な量がありましたね。その一つ一つの教材を現場の先生方がじっくりと吟味して、大切に指導していただけるようにと願っています。
- 内容のことだけではないのですが、今回全ての教科書に「この教科書はこれから日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と書かれていました。私が小学生の時にも書かれていたのかもしれませんが、気づいていませんでした。これはとても大事なことのような気がします。無償で教科書をもらうことは当たり前前のことではありません。教科書をもらえない国の子どももいます。お父さんとお母さんが一生懸命働いた税金によって教科書がもらえることを知るのも大事だと思いました。そういうことも道徳では伝えていけたらいいなと思ったり、また、道徳の教科書には全て「保護者の皆さんへ」とも書かれてありました。「これをぜひ生活にも使ってください」というアドバイスもあります。教科書のとおりにはできませんが、家庭でもぜひ使ってくださいという導きもあり、どれもとてもいい教科書だと思いました。
- 園田教育長 ほかにいかがでしょうか。
- 尾関教育委員 道徳については前回採択してから2年になります。継続という点からすると光村図書になるのかなと思いました。国語力とも関連しているということも話題になっているわけですが、継続という点についてのお考えはありますか。
- 出張委員長 選定調査委員会としては総合的に判断してお伝えした内容ですので、資料作成委員会委員の方々、つまり学校で日々教育に携わっている先生方になりますが、その声も受けとめながら協議しそういう考え方を今回お示ししているところです。
- 尾関教育委員 ありがとうございます。
- 園田教育長 よろしければ採択に入ります。
- 佐川教育総務課長 投票用紙をお配りします。投票箱は空になっています。  
(投票用紙配付) (投票・開票)
- 結果を申し上げます。光村図書5票です。
- 園田教育長 「道徳」は光村図書になりました。
- これで、全ての教科の採択を終わりました。出張選定委員長、朝から長時間のご対応、誠にありがとうございました。御礼を申し上げます。

(出張選定調査委員長 退席)

以上をもちまして、「議案第36号 令和2年度～5年度使用東久留米市立小学校用教科用図書の採択について」を終了します。

---

#### ◎諸報告

- 園田教育長 日程第5、諸報告に入ります。事務局から何かありますか。
  - 森山教育部長 事務局からはありません。
  - 園田教育長 委員から何かありますか。
  - 馬場教育委員 先月、7月22日の月曜日に、東京都市教育長会の研修会があり、京都大学医学部教授の川上浩司先生の講演を聞いてきました。学校で行われている健康診断の情報を活用して、それを生涯の健康のために役立てるにはどうしたらいいかという内容でした。とてもシンプルな仕組みを使って、途切れのない社会福祉に貢献できるという素晴らしい話でした。WHOは、人間が一生かかる病気の7割は妊娠中から学童期の間に体質としてほぼ決まっていると考えていて、母子手帳と学校で行われている健康診断の情報を一元化して、その後の健康を守るために役立てようというものです。まだこの仕組みを使っていない自治体はたくさんあるということですが、近いうちにスタンダードになるのだろうと思うぐらいとてもいい内容でした。仕組みとしては地方自治体が担うのではなく、この団体に情報提供ができれば個人情報はずべてカットされて情報を活用してくれるそうです。日本人の健康増進のためのデータ化を行っている事業団体で、切れ目のない社会福祉をどこの市でも実現できるすごく簡単なシステムということですので、東久留米市でも実施してもらいたいと思うような内容でした。
- 

#### ◎閉会の宣告

- 園田教育長 以上で令和元年第8回教育委員会定例会を終了します。長時間にわたりましてありがとうございました。

(閉会 午後2時05分)

東久留米市教育委員会会議規則第28条の規定により、ここに署名する。

令和元年10月24日

教育長 園田喜雄（自署）

署名委員 尾関謙一郎（自署）